

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

# 和歌山の 農業士

2019  
3  
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第12号





# はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

# C【目次】 CONTENTS

## <巻頭言>

新しい時代に向けて	(和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 松本 一輝)	1
「平成 30 年産梅の状況と将来展望」	(果樹試験場うめ研究所 所長 野畑 昭弘)	2

## <私の農業>

### 農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

こだわりの逸品づくりを目指して	(和歌山市 地域農業士 山本 達弥)	3
仲間と歩むプレミアム栽培	(紀の川市 地域農業士 厚地 恵太)	5
魅力ある楽しい農業に ～還暦からの再スタート～	(九度山町 指導農業士 狭間 富男)	7
目指せ『3K 農家』 ～カッコいい、稼げる、感動がある～	(有田川町 地域農業士 小澤 守史)	9
魅力ある農業を求めて 40 年 ミニトマトの更なる品質向上をめざして!	(御坊市 指導農業士 最明 あけみ)	11
「楽しく」をモットーに!	(すさみ町 指導農業士 抜田 佐代)	13

## <農業に懸ける想い>

### 若い農業者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

家族と歩むイチゴ栽培	(和歌山市 JA わかやま青年部 栩野 雄平)	15
農家にはならない	(紀の川市 新規就農者 林 真司)	16
安定的な高品質果実の生産をめざして	(九度山町 地域農業士 北田 和子)	17
品種・品目を見直し、農業経営の安定へ ～「ゆら早生」・「不知火」・「南津海」の導入～	(広川町 青年農業士 栞原 伸晃)	18
農業収入の安定を目指して	(みなべ町 青年農業士 西川 祥之)	19
農業経営の効率化・省力化を目指して	(田辺市 青年農業士 行森 照明)	20
人と人との繋がりを大切に	(串本町 青年農業士 辻本 圭次)	21

## <県農林大学校学生です。>

### 農林大学校農学部 1 年生の自己紹介 & 近況報告 (第 2 回) 22

#### 園芸学科

谷本 和真	中野 栄作	西澤 和久	古久保 龍句
道浦 まどか	室谷 将喜	森利口 陸人	山崎 竜麻
山本 啓人			

#### アグリビジネス学科

榎本 花季	山本 裕介
-------	-------

## < 役立つ情報、試験研究レポート >

不整地で組み立て可能なシカ捕獲用囲いワナ (果樹試験場 環境部 副主査研究員 西村 光由)	25
固形培地を用いたスターチスの常温育苗技術 (農業試験場 暖地園芸センター 園芸部 研究員 金川 真実)	27
紀州龍神地鶏開発プロジェクト (畜産試験場 養鶏研究所 主査研究員 橋本 典和)	29

## < 農業士会支部活動レポート >

平成 30 年度和海地方農業士会活動ダイジェスト (和海地方農業士会事務局)	31
那賀地方農業士協議会の活動について (那賀地方農業士協議会事務局)	33
伊都地方農業士連絡協議会の活動 (伊都地方農業士連絡協議会事務局)	35
有田地方農業士協議会の活動について (有田地方農業士協議会事務局)	37
日高地方農業士会の活動について (日高地方農業士会事務局)	39
会員の交流と研鑽を深める活動の実施 (西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局)	41
東牟婁地方農業士会の活動について (東牟婁地方農業士会事務局)	43

## < 地域の逸品 >

### 農業士が自慢の地域の隠れた逸品を紹介 !!

もったいないから始まった加工 (紀の川市 指導農業士 稲垣 明美)	45
果物の王様 「マンゴー」 (有田川町 指導農業士 坂井 計巳)	46
(株)日向屋「日向屋ギフト」 (田辺市 青年農業士 更井 孝行)	47

## < 調査報告・農業士会活動レポート >

平成 30 年度 和歌山県農業士会連絡協議会 青年農業士部会活動 経営発展セミナー、車座座談会に参加 (和歌山県農業士会連絡協議会事務局)	48
県農林水産業のリーダーを認定 ～平成 30 年度認定式を開催～ (和歌山県農林水産部経営支援課)	49

# 巻頭言

## 新しい時代に向けて

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 松本 一輝



はじめに、農業士会員の皆様をはじめ、ご協力いただいています県、市町村、JAの関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

最近豪雨や日照不足などの異常気象が多発していますが、今年も8月23日の台風20号、9月4日の台風21号、9月30日の台風24号の3つの台風により大きな被害が発生しました。我が家も、20号、21号の際にパイプハウスの骨組みやビニールの破損がありました。台風時、ハウス内に作物はありませんでしたが、破損のため以降の作付けが出来ず、大きな収益減となりました。

農業は天候に左右されるものとはいえ、これまでどおりの栽培が難しくなっており、悩ましいところです。

さて、私の住む和歌山市河西地域は砂地地帯であり、古くからショウガや軟弱野菜等の栽培が行われてきました。我が家も施設と露地圃場で、ショウガと軟弱野菜（ホウレンソウ）を栽培しています。

ここ数年、ショウガブームのおかげで販売は比較的好調ですが、以前と比べて栽培はだんだん難しくなっています。

ショウガは根茎腐敗病や青枯病などの土壌病害が多く、この対策が重要です。臭化メチルが使用できた時代は大きな問題になりませんでしたが、臭化メチルが使用できなくなり、病気の発生と防除にかか

る手間が増え、作りにくくなりました。いくつかの代替薬剤もありますが、もっと効果的な薬剤や防除方法があればと思います。

さらに、現在は何とか回せていますが、雇用の確保もこれから問題となってきます。各所で言われているように地域内での雇用対策はもちろんのこと、地域を越えた他産地との連携による周年雇用確保なども、将来的には必要となるかも知れません。

現在、私の住む地域は、ショウガ産地として比較的安定していますが、さらに知名度を上げるため、地域の皆さんと協力して産地を盛り上げていきたいと考えています。

また、農業後継者が比較的多い地域なので、私たち若手農業者が協力し合って、次の世代に農業をつなげていきたいです。

最後になりましたが、若手の農業者には「ぜひ農業士になって農業士会に入って下さい」と言いたいです。

農業士になることで、普段は出会うことのない様々な人と出会い、刺激を受けることが出来るのはもちろんですが、組織活動はベテランばかりだと、どうしても考え方が固定化されてくることがあります。新たな発想を取り入れるためにも、新たな会員をどんどん増やしていきたいです。

# 巻頭言

## 「平成 30 年産梅の状況と将来展望」

果樹試験場うめ研究所

所 長 野 畑 昭 弘



年末に発表された「今年の漢字」は、西日本豪雨や北海道地震、それに相次いだ台風や記録的な猛暑などの自然災害によって多くの方が被災したことから、災害の「災」の文字が選ばれました。和歌山県におきましても、台風 20 号、21 号、24 号と非常に勢力の強い台風が 3 つも襲来し、県内農業に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様方には、心よりお見舞い申し上げるとともに一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、和歌山県の梅生産は、1965 年以降 54 年連続生産量日本一となっています。その要因としては、なんと言ってもブランド品種である「南高」の存在です。加えて、授粉用のミツバチや完熟収穫用のネット導入等、農家の皆様方の技術革新が挙げられます。また、栽培から 1 次加工が農家、2 次加工から流通販売が加工業者と明確に分業化されていることも要因の一つと考えております。

平成 30 年産の梅の生育概況を振り返ると、1 月下旬～2 月上旬が低温で推移したことから、開花が平年より 10 日程度遅れたものの開花期間中天候に恵まれ、授粉も良好で着果数も多くなりました。その後、収穫期まで比較的降雨にも恵まれたことで肥大も順調に進みました。先般、公表された農林水産統計では収穫量 73,200t (H29 年産対比 136.8%) と平成 25 年産、平成 9 年産に次ぐ過去 3 番目に多い収穫量となりました。しかし、主産地である日高、西牟婁地域では、9 月に襲来した台風 21

号の潮風害により、早期の落葉や一部沿岸地域での結果枝の枯れ込み等の被害が発生しております。

販売面では、昨年夏が記録的な猛暑であったことに加え、梅干しの効能である熱中症予防や疲労回復効果がマスコミ等で紹介されたこともあり、梅干しの消費が堅調に推移し、加工業者の皆さんは、フル操業でも注文に追いつかない状況であったと聞いております。

今後、この日本一の梅産地を維持していく上で問題となるのが、農業従事者の高齢化や後継者不足です。2015 年センサスを見ると、主産地であるみなべ町においても、65 才以上の農業従事者の割合が 43%、その内 75 才以上の割合が 19% と農家の高齢化が進んでおり、今後 10 年で 20% 近い農家がリタイアすることが予想されます。また、新規就農者は、過去 3 年間でわずか 19 名と少なく、リタイアする方の樹園地を守るには十分とはいえません。

現在の梅生産量を維持するには、さらなる生産性の改善や農家個々の規模拡大が必要となります。具体的には、「南高」と同等の品質で自家和合性を有する品種開発であったり、栽培技術の「見える化」による生産性向上、ロボットや AI を活用した先進機械の導入による省力化等、さらなる技術革新が必要と考えております。うめ研究所では、将来を見据えた育種や新技術の実証等にも積極的に取り組んで参りますので、農業士の皆様方にもご支援賜りますようお願い申し上げます。

# 私の農業

## こだわりの逸品づくりを目指して

和歌山市 地域農業士

山本 達 弥



### 1. はじめに

私は高校卒業後、農林水産省果樹試験場興津支所研修課程を修了したのち、昭和57年に就農しました。

就農当時、我が家では温州みかんを中心に八朔や桃、柿などを栽培し、販売先は商売人が中心で桃と柿は市場出荷を行っていました。

当時から私の住む奥須佐地区は兼業の方が多く、温州みかと水稻を栽培している方がほとんどでした。



当地域では珍しい温州みかん貯蔵庫

### 2. 農業経営の特徴

就農当時を振り返ると、栽培品目自体は現在とそれほど変わっていませんが、販売方法は試行錯誤の結果、大きく変わりました。

就農してまず感じたのは、市場出荷では、豊作時には自分の思う価格が付かず、また、売ったらそれ

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	130a
スモモ	30a
柿	100a
スイカ	20a
柑橘類	130a
カボチャ	10a
米	170a
マクワウリ	10a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	3～5人

で終わりで消費者とのつながりもないということでした。

そこで、就農2年目に家の向かいに販売所を設け、桃の直売を始めました。当初はなかなか売れず、「これはつらいなあ、続かんなあ」と思いました。

そこで次にスーパーへの卸しに目を付け、和歌山



直売所



市内のスーパーへ営業に回りました。

これはスーパーへの直接販売で、全量買い取りなので、箱代や手数料は不要でした。

こうして、直売を中心にスーパーへの卸しを加えた販売形態となったのですが、柑橘類は作付けが多かったため、従来どおりの商人への販売が主でした。

これではダメだと思い、ここからだんだんと柑橘類を減らし、桃と柿を増やして直売に力を入れていきました。直売にこの2品目を選んだのは、桃はお中元として人気が高く、柿は直売でよく売れる品目だったからです。

平成12年に県内にめっけもん広場が出来た頃から、委託販売が増えてきました。現在では、こういった委託販売所が、コンビニと同数あるとの話も聞いたことがあります。

この頃、我が家の販売形態は「直売」、「自分で袋詰めしてスーパー、委託販売所を回る」、「市場出荷(柑橘類のみ)」の3本立てでした。ただ、袋詰めをしての委託販売では、袋詰め作業の時間より、配達で回る時間の方が多くかかっていた。

このため、7～8年前に自分での配達を止め、他府県の委託販売所へ青果を運送することにしました。これに伴い、市場販売をゼロにしました。

現在は他府県での委託販売が中心であり、3年前に息子が就農したのを機会に栽培面積も増やしました。

### 3. 今後の経営方針

私は機会を見つけては、他府県の篤農家へ勉強に行っています。そのなかで、3年前に大阪府で桃を栽培している篤農家を訪ねました。

そこで「バクタモン栽培」という、栽培管理の工程に「バクタモン」と呼ばれる土壌改良微生物資材を取り入れた栽培方法に出会いました。その方は、この栽培方法で高糖度の桃を作り出し、ギネス世界

記録に認定されたそうです。

私はこの栽培方法に大変興味を引かれ、その年からこの方法を取り入れました。その結果、温州みかんではそれほどの効果がみられませんでした。桃、柿、スイカでは果実糖度が上がってきました。

資材は土壌散布と葉面散布を組み合わせただけで、費用も手間もかかりますが、効果は確かに感じることが出来ました。

今後、私も糖度30度の桃作りをめざしていきたいと思います。そうすれば、果実全体の品質の底上げにもつながると考えています。

### 4. おわりに

現在は委託販売が中心ですが、将来的には個人向け販売を中心にしていきたいと考えており、ネット販売にも挑戦してみたいです。

あと、息子が就農してからはノボリやダンボール箱のロゴデザイン等、息子の意見を取り入れながら新たな販売戦略にも取り組んでいます。



直売所では果実を中心に販売



新たにデザインしたダンボール箱

## 仲間と歩むスプレーム栽培

紀の川市 地域農業士

厚地 恵太



### 1. はじめに

大学卒業後、オランダ、ブラジルでそれぞれ3ヶ月間海外研修に行きました。

スプレームを学ぶためです。

オランダは最先端の施設でブラジルはその対極にある簡素な必要最小限の施設でした。

その後、大阪の生花市場で半年間研修し就農しました。

就農後、40aだった施設を60aに拡大しました。栽培品目はスプレームです。父親が42年前に和歌山県で初めて栽培に取り組んだ品目です。所属するスプレーム部会は全国組織です。私は先日まで全国スプレーム部会青年部の部長を務め、東京オリンピック・パラリンピックのビクトリーブーケ採用に向けて活動しておりました。

### 2. 農業経営の特徴

就農後、まず問題になったのは土でした。何十年もスプレームを連作していた為、連作障害を起こしていました。以前行なっていた土壌消毒も、使用していた薬剤が製造中止になって以降、土壌消毒せず栽培を続けたのもその一因でした。

現在は様々な薬剤で土壌消毒を行い、土壌分析の結果をもとに必要成分を補い土作りに留意しながら栽培しています。

スプレーム栽培には電照も加温も必要です。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
スプレーム	60a
○労働力	
家族	4人
雇用(常時)	3人
(臨時)	5人

電照は白熱球から蛍光灯に、今ではLEDに変えつつあり、電気代を大幅に削減しています。一方、加温については燃油価格の高騰により重油代が占める経費の割合は年々増えています。そこで私はハウス内の内張り資材を布団資材に変え、また、ヒートポンプを導入し経費の削減に努めています。



スプレーム栽培

スプレーマムの使用用途は多岐に渡ります。

今、栽培している品種の多くは葬儀、仏花が中心です。

しかし、多くの花形があるスプレーマムはブーケなどのアレンジにも重宝されます。

暑さにも強く花持ちの良いスプレーマムは東京オリンピック・パラリンピックのビクトリーブーケの花材としても注目されています。

今後も多様な品種の中からあらゆるニーズにあった品種を選び栽培して行こうと考えています。



東京オリンピック・パラリンピックの  
ビクトリーブーケ採用に向けて活動

### 3. 今後の経営方針

スプレーマム栽培を経営していくなかで、自動カーテンや電照、加温など設備投資が欠かせません。これまでも行ってきたような品質向上を実現する新たな技術や経費の節減に繋がる新たな設備の導入に取り組んでいきたいと考えています。

また、毎年数多くの新品種が発表される品目なので、実需者のニーズや栽培面を考慮した品種の探索を仲間と情報交換しながら続けていきます。



アレンジ



ビクトリーブーケ

### 4. おわりに

他の作物の例外に漏れず、スプレーマムについても経費高、販売単価安の問題に苛まれています。先輩方が築きあげた全国、県の組織に身を置き、仲間と協力しながらスプレーマムの栽培技術の向上や消費拡大に今後も励みたいと考えています。

# 私の農業

## 魅力ある楽しい農業に ～ 還暦からの再スタート～

九度山町 指導農業士

狭間 富男



### 1. はじめに

私は、平成7年に14年間勤めた農協を退職し、実家の農業を引き継ぎました。

両親が早くから施設栽培に取り組み農業に熱心であったこと、当時、果実の価格が安定していたこと、私が農協で営農指導員をしていたこともあり、抵抗なく就農することができました。

就農当初、ハウス桃、スモモ、ハウス柿、「刀根早生」、「平核無」、「富有」、八朔など、5月から12月まで順に収穫できる栽培体系でしたが、収穫時期が違っていてもそれぞれの管理作業が重なり、農作業の遅れや農産物価格の変動、資材の高騰等の問題に加えて、現在では家族労力が2人になったため、極早生柿、「刀根早生」、「富有」が主体の経営に変わってきています。

### 2. 農業経営の特徴

就農時の労働力は、家族4人でしたが、両親の高齢化に伴い、徐々に労力不足が顕在化してきました。

そこで、最初に防除作業を省力化するため、先輩や友人の薦めもあり、SS（スピードスプレーヤー）を導入しました。人家との隣接園を除いて、SSでの防除がほぼ全園で可能となり、防除時間が大幅に短縮できました。

次に、園内道を拡幅して軽トラックが畑の中まで入ったり、通り抜けできるようにして収穫や施肥の

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	190a
┌ 極早生	25a
├ 刀根早生	90a
├ 平核無	10a
├ 大核無	10a
└ 富有	55a
柑橘（八朔、不知火）	10a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	2人

作業を軽労化しました。

また、「刀根早生」に偏っていた品種構成を極早生種と「富有」の割合を増やして収穫期の労力の平準化を図ってきました。

栽培管理は、「基本を大切にし、適期に作業をする」ことに心がけています。



柿園から紀ノ川を望む

柿栽培については、摘蕾、「刀根早生」の側枝剥皮、剪定を重点に置いて取り組んでいます。

摘蕾は大玉果生産や生理落果軽減に重要で、その後の摘果作業も効率的に行えます。

また、側枝剥皮処理により、9月上旬から「刀根早生」の収穫が可能となり、収穫労力の分散にも有効です。剪定は低樹高化により作業効率を高め、二本主枝整枝にそれぞれ亜主枝2本を配置し、太い枝を少なくすることで生産効率を高めています。



柿の剪定

### 3. 今後の経営方針

還暦を迎え、今後の経営では労働力が大きな課題です。我が家では後継者の見込みがないため、年齢を重ねても農作業ができるコンパクト樹形づくりに取り組みたいと考えています。

また、傾斜地園での省力化機械（軽トラック、SS、乗用モーター等）が安全に、そして効率的に走行できるようパワーショベルを活用して園内道の拡幅、部分舗装にも努めていきたいと思っています。

富有柿は、極早生柿や「刀根早生」に押されて減少していますが「九度山の富有柿」をさらに高品質化し、ブランド力を高めて行きたい。

余談ですが、営農指導員になりたての頃に教わった農業の「か・き・く・け・こ」を今でも大切にし



軽トラックが走行可能な園内道

て農業に取り組んでいます。「か」は観察、「き」は記録、「く」は工夫、「け」は研究、「こ」は行動です。さらに、私は、「き」は聞く、「け」は健康、「こ」はコミュニケーションも大切だと考えています。

### 4. おわりに

去年は、酷暑、干ばつ、記録的な台風が次々に上陸、そして長雨、病害虫の発生、さらに鳥獣害と大変な年でした。これからも農業をしていけば天候の影響、病害虫・鳥獣被害等、努力しても納得できない結果もあるでしょう。「だから農業は難しくてやりがいがある」という心境にはまだまだなれませんが、楽しく農業をして笑って生きていく「楽・農・笑・生」の精神で農業を続けて行きたい。

私を支えてくださる周りの人々に感謝しながら、昨年より良い果実ができるように日々努力していきます。若い農業後継者、新規就農者の方々がどんどん増える農業になるように私も関わって行きたいと思っています。

# 私の農業

## 目指せ『3K農家』

～ カッコいい、稼げる、感動がある ～

有田川町 地域農業士

小澤守史



### 1. はじめに

私は、東京農業大学を卒業後、東京シティ青果株式会社に就職しましたが、結婚を機に平成10年に就農しました。朝から晩まで働く親の姿を見て、農業を継ぐのはたまらなく嫌でしたが、子育て環境なども考え、30代を目前に帰郷しました。

就農当時は、3haを栽培していましたが、妻も農業を手伝ってくれることから、早生70a、普通30aを増やしました。一人あたり1haを管理する計算です。両親とは管理する畑を区別し、お互い手を出さないようにしています。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	320a
極早生	30a
早生	230a
普通	60a
中晩柑	80a
不知火	20a
清見	30a
河内晩柑	30a
○労働力	
家族	4人

### 2. 農業経営の特徴

#### (1) スケールメリット

東京シティ青果でセリ人をやっていた時、全国のみかんの流通の実情をみて、行政とJAがうまく連携をとって販売する愛媛県の取組に影響を受けました。そこで、個選で小さくやるよりも、JAに入ってスケールメリットを出すことが大切だと感じました。

#### (2) 『3K農家』

「カッコよくて、稼げて、感動がある」の『3K農家』を目指しています。そこで、これまでの「ドロ臭い」イメージを払拭するため、農場設備や車などを「カリフォルニアファームスタイル」と名付けた明るい色使いとデザインに一新しました。



### (3) 機械化による省力化

体の負担軽減のために、機械を積極的に導入しました。辛そうな姿を子供たちに見せたくないからです。山の段々畑でもモノレールまでコンテナを一輪車で運べるように園地整備を行い、全園にスプリンクラーも設置しました。

和歌山大学の依頼でアシストスーツのモニターも6年間務めました。早く実用化してほしいものです。



アシストスーツを装着



園内に設置したモノレール



マルドリ園地

### (4) こだわりの栽培

既存の樹形を2本主枝仕立てに樹形改造することにより園内をスムーズに移動できるようになり、またマルドリ栽培に取り組むことで糖度があがるなど、作業性向上と高品質化を実現しました。

## 3. 今後の経営方針

規模拡大や法人化よりも、一樹一樹、目の届く範囲の家族経営でやっていきたいと考えています。丹生系や河内晩柑を増やすなど、面積を変えずに品種構成を変更しながら労力分散をしていく予定です。

## 4. おわりに

有田川町の地域創生プロジェクト、まちづくりA G W (Aridagawa Weird) に参画し、若者が住みたくなる有田川町を目指して活動しています。2018年8月には旧田殿保育所を改装したカフェ「GOLDEN RIVER」がオープンし、少しずつ形になってきました。

我が娘たちも地元に残りたくくなるような農業、地域にしていきたいと思っています。



妻と娘たち

# 私の農業

## 魅力ある農業を求めて 40 年 ミニトマトの更なる品質向上をめざして！

御坊市 指導農業士

最 明 あけみ



### 1. はじめに

昭和 52 年に結婚し、夫と夫の両親とともに育児の傍ら農業に携わりました。農地は JR 御坊駅の南西 700m ほどにあり、当時は水稲→レタス→かぼちゃ（およびスイカ、スイートコーン）の年 3 作体系で、この 3 作目を私たち夫婦が任されていました。

昭和 61 年に私たち夫婦が経営全般を担うことになり、新たな挑戦として施設園芸に取り組みました。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
ミニトマト	
キャロル7	30a
アイコ	5a
水稲	90a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2人

### 2. 農業経営の特徴

振り返ってみると、時代や社会情勢の変化にあわせて経営を転換してやってこれたのかなと思います。

経営を受け継いだ当時は切り花の値が良かったこともあり、平成 3 年からスイートピーを皮切りに、平成 5 年には鉄骨ハウスを建ててバラのロックウール栽培にも取り組みました。しかし、暫くすると切り花の価格が安くなって利益を上げることが難しくなってきました。丁度そのころ息子が国の野菜茶業試験場（当時）の研修を修了して戻ってきたことをきっかけに、品目をトマトに替えることにし、息子の意見を取り入れてミニトマトを作り始めました。しかし、なかなか思うような収益を上げることができず、3 年後にミニトマトに切り替えました。

現在、ミニトマトは「キャロル 7」を 30a、「アイコ」を 5a 作っています。「キャロル 7」は、以前バラを栽培していたロックウール栽培システムを利用し、種子を播いて育てた自根苗を 8 月中旬に定



ミニトマト「キャロル7」の栽培施設



施設での誘引作業





パック詰め作業

植します。一方、「アイコ」は、接ぎ木苗を9月初旬に定植して土耕栽培で育てます。

「キャロル7」は、「異形株」という品種特性の劣る個体が混在するので、育苗中に選別しますが、今年はこれが特に多く、選別や播き直しにたいへん手間がかかりました。

生産物は、全てJAを通じて阪神市場へ販売しています。「キャロル7」は、従来の粒どり品と差別化するため、房どりを基本にしています。糖度が8以上のものは、「紅房果」（こうぼうか）のブランドで出荷でき、単価も高いのでこれを目指していますが、どうしても糖度8に満たないものや粒どりせざるを得ないものが出てきます。いかにして完熟に近い糖度の高い果実を裂果させずに収穫するかに神経を使います。

裂果は、結露すると発生しやすいので、早朝に天窓換気して湿度を下げるとともに、夕方は早めにハウスを閉めて温度を確保しています。また、下葉欠きの遅れも裂果を助長すると思われるので、誘引テープ1段分（5枚）ごとに下葉欠きをしています。

コスト削減というと大袈裟かもしれませんが、交配用のハチの巣箱は、数日おきに設置するハウスの棟を代えています。

### 3. 今後の経営方針

農業を営むうえで自然災害は避けて通れません。昨年の台風21号では、定植して間もない鉄骨ハウ



パック詰めされた房どりミニトマト

スの被覆が剥がされ、サイドの開閉装置もめちゃめちゃに壊れて、復旧作業に体がへとへとになりました。災害に強い生産基盤の確保が農業を続けていくために不可欠だと再認識し、少しずつ設備を見直していこうと思います。

また、これまでの経験から、ミニトマトは必要なときに必要な手入れを的確に行うことで、より良い品質のものができると実感しています。いたずらに量を追うのではなく、管理が行き届く範囲で高品質でおいしいミニトマトを作っていきたいです。孫が私たちの作ったミニトマトをおいしいと言って喜んで食べてくれるように、買ってくれた方に喜んでもらえるものを作り続けたいものです。

夫婦とも60歳を超え、近ごろ体力の衰えを感じ始めています。幸い息子が農業に就いてくれたので、近い将来経営を継承したいと考えています。それに向けて準備するとともに、続けられる限り息子を手伝いながら経験や技術を伝えていこうと思います。

### 4. おわりに

農業士としての活動のなかでは、女性部会で他町の同じ立場の女性と交流できるのが楽しく、また励みになります。女性の農業士の人数は少ないですが、このつながりを大事にしたいです。

それと、農業の後継者不足は地域にとって大きな課題です。農業を志す人が居れば、可能なかぎり支援していこうと思っています。

# 私の農業

## 「楽しく」をモットーに！

すさみ町 指導農業士

抜田 佐代



### 1. はじめに

私は、昭和 53 年にすさみ町太間川に嫁いで来ました。主人は大工で工務店に勤務していました。

そのころ、小さな雑貨店を営み、農業は水稻 60a、梅などの畑 10a で、その他、豆腐やこんにゃくづくりをしていました。豆腐などの加工品の販売先への配達是我的な役目で、販売先へ行くたびに、知らないお客さんから「この豆腐おいしいね」とか「うちの子、この豆腐しか食べないんよう」といった話を聴いていると、「豆腐をはじめ、加工品作りは絶対続けていきたいな」と感じるようになりました。

始めは思うようにいかなかったですが、義母の手伝いをしていくうちに、少しずつ自分でも出来るようになり、徐々に作るのが楽しくなってきました。

当時、祖父から「ビニールハウスを建ててみるか」と話がありましたが、私は加工品づくりを中心とした農業がしたかったので、「それなら豆腐を作る機械が欲しい」と言うを買ってくれました。

それから本格的に豆腐づくりをはじめました。また独学で加工品づくりを勉強し、様々な加工品を手がけるようになりました。

今では、いももち、さんま寿司、こんにゃく、スイートポテト等のお菓子類など約 30 品目となっています。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	60a
梅	5a
野菜類	20a
○労働力	
家族	3人

### 2. 農業経営の特徴

現在、水稻 60a、梅 5a、野菜類 20a で野菜はさつまいもやこんにゃく芋、ゴボウ、ニンジン等、年



主な加工品



加工場



加工品の原料となる野菜づくり

間 20 種類以上栽培し、そのほとんどは加工品の原料として使っています。

また、昨年度から 2a の畑で西牟婁振興局の普及指導員さんにもご協力いただき、よもぎの試験栽培をしています。今年、この自家製よもぎを使って、よもぎ餅などの加工品を作り、販売をするのを楽しみにしています。

加工品の出荷先は、すさみ町の道の駅や J A 紀南の直売所を中心に、田辺市やすさみ町の小売店の他、すさみ町内外での注文先への対応等様々です。

時には、すさみ町の友好姉妹都市である大阪府寝屋川市での物産展や奈良県への出品などもあります。

加工品は、日々勉強しながら品目をもっと増やしたいと思っています。現在、テングサを使った水ようかんづくりにもチャレンジしています。

またその他の活動として、10 年ほど前から、和



よもぎの試験栽培

歌山県ほんまもん体験の受け入れや 4 年前から主に 5 月と 6 月、10 月と 11 月に一般社団法人南紀州交流公社からの依頼で民泊の受け入れをしています。

民泊の受け入れでは、子供たちに収穫体験やその収穫した農作物を使っての料理づくり体験を行っています。

加工品づくりの仕事もあるので、時間との戦いになりますが、子供たちの感動している姿を見てみると、「普段自分たちがしていることも都会の子供たちにはこんなに新鮮に感じるんや」と思い、とても楽しくなります。

また、逆に子供たちから教わることもたくさんあります。

### 3. 今後の経営方針

家の前の道が熊野古道なので、古道歩きの方がたくさん通ります。その休憩場所として、自分の畑で獲れた農作物を使っての手作りスイーツや挽き立てのコーヒーでおもてなしが出来るような茶屋を経営したいと考えています。

### 4. おわりに

私の住んでいるすさみ町太間川地区は典型的な山間地域で何も無い所だとよく言われます。しかし実は、山の恵み、自然の恵みがいっぱいいる所だと思います。

8 年前に息子が帰って来て、今では加工品づくりは息子が中心となって頑張っています。

これからも家族みんなで話し合い、「楽しく」をモットーに、この自然の恵みを活かしながら、皆様に喜んでいただけるような仕事をしていきたいと思っています。

# 農業に懸ける想い

## 家族と歩むイチゴ栽培

和歌山市 JA わかやま青年部  
羽野雄平



### 1. はじめに

私は、県外で会社員生活を送っていた頃は、転勤や出張が多く、家族との時間がほとんど取れませんでした。そんなとき妻の後押しもあり、帰って就農することを決意しました。

当時、叔父が営んでいたのは温州みかんとタケノコ栽培で重労働であり、同じ事をやれば妻も体を壊すと思いました。比較的軽量の作物で、高設栽培にすることで妻の体への負担を減らせることからイチゴを選び、平成 28 年に就農しました。

### 2. 農業への想い・取り組み

スタートする際、農地は叔父から譲り受けることができましたが、栽培ノウハウ、ハウス施設、農機具等はゼロからのスタートでした。

栽培ノウハウについては、就農と同時に半年間、岩出市のイチゴ農家で研修を行いました。パイプハウスと高設ベッドは自分で組み立て、農機具は自己資金で購入しました。

「とりあえず栽培してみよう」とスタートしましたが、やってみると予想以上に労働時間がかかり、味と収量も全然納得のいかないものでした。

しかし「やると決めた以上やるしかない」と、資金を借りて耐候性ハウス 10a を増設しました。大きな負債を抱えることになりましたが、妻も同意してくれました。

こうして 2 年目を迎えましたが、1 年目で悔しい思いをした味と収量を意識して栽培しました。「失敗は出来ない」との想いで取り組んだ結果、味、収量とも向上し、自信につながりました。

そして 3 年目を迎えようとした時、9 月 4 日の台

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積 イチゴ	13a
○労働力 家族	2 人
臨時雇用	1 人

風 21 号により被害を受けました。パイプハウスは大きく損壊しましたが、耐候性ハウスは何とか無事であり、計画どおりの作付けが出来ました。

今後は、4 年目の作付け前に耐候性ハウスの増設を計画しています。また、技術的には自分が納得できる品質を追求し、味で認めてもらいたいです。

また、地域を盛り上げるためにイチゴ狩りに取り組みたいし、直売を増やしていきたいです。直売は、消費者に直接伝えて納得してもらえるので、自分のやりがいにも繋がります。

このように家族で農業に取り組んできたのですが、会社員生活と違い子供との時間もでき、日々家族の大切さを感じています。

将来は、農業をする自分の姿を見て、子供がやりたいと思える農業を目指したいです。



ハウス内栽培状況



まりひめ果実

# 農業に懸ける想い

## 農家にはならない

紀の川市 新規就農者

林 真 司



### 1. はじめに

2017年12月から就農。その前はフィリピン共和国の某外資系IT会社でサラリーマンとしてBSE（ブリッジシステムエンジニア）、営業、日本語教師などの仕事を担当していたが、自分で仕組みを作らないと、うだつがあがらない人生になると感じ、退職を決意。現在は両親とイチゴの栽培をメインに、桃など他の果樹栽培にも取り組んでいる。規模拡大を必ず行う。“地域活性”、“フルーツで健康増進”も重要キーワード。

### 2. 農業への想い・取り組み

“地域の産業を活かしながら、地域にお金が落ちる仕組みを作る”これに尽きると思う。

タイトルに書いたように、農家にはなっていないと思っている。〇〇家とは色々あると思うが、農家の他には画家、陶芸家、政治家など数をあげれば足りがなく、これらの人々に共通することは会社のように人を雇ってビジネスとしてやっていないということだ。当然農家もそちらに属している。ここで述べたいことはごく単純で、農業をきちんと経営して、投資できる体力を作り、規模を大きくして、人も雇用して、地域総生産額を増やして、県外から人が来る仕組みを作って、税金をきちんと納めて、市や県の経済に貢献できるようになりましょうということだ。要は農業経営者になりましょうということ。

皆で儲からないように足を引っ張り合って、それを善とする考え方、状況の中で、この街が衰退化していくのを何もできずにただ横で見ているのはおもしろくない。自分がある一定の成果を収め、成功事例をいち早く作り、他に同じようにやりたい人をサ

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
イチゴ	20a
桃	30a
○労働力	
家族	3人

ポートして、地域にお金が落ちる仕組みを作る。今は日々の作業に加え、規模拡大のための調整とウェブを使った情報発信などを行なっている。



桃園地



イチゴ栽培施設

ちなみに見切り発車でウェブサイト立ち上げましたので、お時間のある際また見てください。  
<https://kino-farm.com/>

# 農業に懸ける想い

## 安定的な高品質果実の生産をめざして

九度山町 地域農業士

北田 和子



### 1. はじめに

我が家は元々農家であったため、両親が畑へ出て働く姿を見てきましたが、私自身は農作業の経験がほとんどありませんでした。

しかし、31歳の時、父が病気になり、これを契機に子育てしながら農作業を手伝うようになり、次第に家業の農業を絶やしたくないとの想いが強くなり、母が健在なうちにと本格的に農業に取り組み始めました。

二年前に母も亡くなり、現在、農業経営は柿栽培が中心で、周りの人に教えてもらったり、書物を読んだりしながら、美味しい柿やみかんを作れるように励んでいます。

### 2. 農業への想い・取り組み

果樹の剪定は、JA や親類（いとこ）に頼んでいます。柿は、適度に間伐し、低樹高に仕上げてもらっているのが、農作業が効率的に行えており、農薬散布時のかけむら防止にもなるので、病害虫の発生や被害をうまく抑えられています。

私の一年間の農作業は、剪定枝の処理から始まります。年間を通して義兄の手伝いと家族の協力があって助かっています。昨年、剪定枝の処理は、チップパーをJAで借りて粉砕したところ、思っていたより使いやすく、効率的で人家の近くの畑でも煙害の心配もなく良かったです。

大玉果生産のため、4月中旬からの早期摘蕾を心がけ、早生種から晩生種の「富有」まで順に実施しています。

摘蕾は、着蕾の多い年があったり、二番花が多かったり、降雨などの影響で作業が遅れたりします。安定的に人手を確保して、早期に作業を終了させたいと考えています。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	64a
┌ 刀根早生	16a
└ 松本早生富有	18a
└ 富有	30a
ミカン	10a
八朔	20a
○労働力	
家族	1人
臨時雇用	1人

夏場の農薬散布は体への負担が大きいので、涼しい早朝からの散布で対応していますが、非効率的で日数もかかります。スピードスプレーヤーを導入する程の規模ではないので、今後農業を続けて行くための課題となっています。

一方、猪等による農作物被害が増加しており、ミカンの収量は半減しています。早急に防護柵を設置しなければとも考えています。



八朔の収穫

今年、一念発起して、振興局主催の農業技術講習会を受講しました。高品質果実を安定的に生産するには基本管理を確実に励行し、柿の生理を知ることが大切であることを学びました。夫は一年後には勤めを退職するので、今後、柿に限らず新しい作物の栽培にも挑戦していきたいと思っています。

# 農業に懸ける想い

## 品種・品目を見直し、農業経営の安定へ ～「ゆら早生」・「不知火」・「南津海」の導入～

広川町 青年農業士

榎原伸晃



### 1. はじめに

私は、高校を卒業後すぐに就農し、今年で22年目を迎えます。就農してからは、柑橘栽培の基本を父から教わり、技術の習得に励みました。現在は、「ゆら早生」や「宮川早生」などの温州みかんを中心に、「不知火」や「南津海」など、柑橘を主体とした栽培を行っています。

### 2. 農業への想い・取り組み

我が家は代々柑橘農家で、私が就農した時には温州みかんを中心に「清見」を栽培していました。

この頃は栽培品目の偏りから、天候不順による不作や他産地の生産状況による販売価格の変動の影響を受け、毎年の収益が安定しない状況にありました。

そこで、10年前から品目・品種構成を見直し、「ゆら早生」や「不知火」への改植に取り組みました。このことで経営リスクの分散や労働配分によるコス



南津海園

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	240a
ゆら早生	20a
宮川早生	100a
向山温州	50a
林温州	50a
その他	20a
中晩柑	55a
不知火	30a
南津海	25a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	6人

ト削減とともに、適期作業の充実が図られ、品質の向上などを実現出来ました。

また、更なる経営の安定化を図るため、隔年結果性が強い「清見」を「南津海」に改植しました。品種更新は全て終わるまで2年の歳月を費やしました。

なお、「南津海」は3年前に初収穫を迎え、今では我が家の主力品目のひとつとなっています。

私は就農してから今日まで、経験不足から失敗もしましたが、深く気にしないのが自分のスタンス、今後も「失敗は成功のもと」の考えで農業経営を進めていきます。

今年度で青年農業士は定年となりますが、来年度からは地域農業士として、これからも有田地域の農業を盛り上げていきたいと考えています。

# 農業に懸ける想い

## 農業収入の安定を目指して

みなべ町 青年農業士

西川 祥之



### 1. はじめに

私は就農して19年目になります。

就農当初は梅専作で、栽培面積も約1haでした。その後少しずつ面積を広げていき梅畑の面積は2ha。また、5年前からはキャベツ、キヌサヤなどの野菜の栽培も行うようになりました。

### 2. 農業への想い・取り組み

「みなべ町で農業をしているなら梅を作っていれば安泰ではないか」と思われるかもしれませんが、しかし、近年こそ梅の価格もそれなりに安定してはいますが、それ以前は厳しい年が数年間あり、収入が不安定になったりもしました。

そこで、梅閑散期にキャベツやキヌサヤを栽培し、収入の安定を目指しました。

安定のために始めた野菜の栽培ですが、梅ばかり作っていた自分には野菜栽培の才能が乏しいことに気づき、十分な収益を上げるまでには至っておらず、難しさを痛感しています。

梅は少々手を抜いてもある程度は実がついてはくれるのですが、野菜は除草作業や適期防除などを怠り、少しでも手を抜くと生育が悪くなり、良いものが出来なくなってしまいます。

また、育苗や植え付け圃場など、前段階の準備の大切さも知ることができました。

野菜を手がける時は、梅を栽培する感覚から頭を

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	200a
キヌサヤエンドウ	4a
キャベツ	10a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	2人（延べ60人）

切り替え、時間をかけて丁寧に接していかなければなりません。

しかしながら、梅を栽培するときも野菜と同じように、丁寧に栽培することで畑の管理もしやすくなり、作業効率上がることに気づきました。

そうすることで、野菜栽培に充てる時間が増え、丁寧な管理が出来るようになり、少しずつ品質の良いものが作れるようになってきました。

収入安定のために始めた野菜作りですが、農作業全般の取り組みの大切さを知るきっかけにもなり、自身の農業活動の成長にも繋がりました。そして、本来の目的もしっかりと達成するとともに、今後は野菜の栽培面積を可能な限り広げていき、梅と野菜の両輪で高いレベルの農業経営を目指していきたいと思えます。



ハウスキヌサヤエンドウ栽培



梅のせん定作業



# 農業に懸ける想い

## 農業経営の効率化・省力化 を目指して

田辺市 青年農業士

行 森 照 明



### 1. はじめに

私は、県農業大学校（現農林大学校）を卒業後、JA紀南に勤めていました。営農指導員の仕事をしていたのですが、その当時、農家の方から逆にいろいろと教えていただき、その時の経験が現在の農業経営に役立っています。

就農して5年目になり、梅（梅干し）と温州みかんの複合経営を行っています。

### 2. 農業への想い・取り組み

農業経営において、作業の効率化や省力化は大きな課題であると考えています。現在、家族3人（父、母、私）で農業経営を行っています。これから年を取るにつれ、労働力は落ちてきます。

対策として、フォークリフトの導入や急傾斜地へのモノラックの設置、運搬車の入りやすい園地作り等に取り組んできました。

今後も、作業効率の悪い園地については、改良していきたいと考えています。

また、農業収入においては、梅を中心に売り上げ

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	150 a
温州みかん	50 a
○労働力	
家族	3人

を確保できるよう頑張ります。生産量が増えるよう、老木園の改植を進め、さらに複合経営として、温州みかんにも力を入れ、規模拡大をしていこうと考えています。

最後に、農業士になって思ったことは、他の農業士の皆さんが農業に対して、しっかりとした考えを持っているということでした。そんな地域農業士の先輩、指導農業士の大先輩、同年代の青年農業士の存在は、僕にとって、大きな刺激になっています。そういった縦のつながりと地区を越えた横のつながりを大切に、楽しんで農業を頑張っていきたいと思います。



温州みかん園地



改植した梅畑及びモノラック設置状況

# 農業に懸ける思い

## 人と人の繋がりを大切に

串本町 青年農業士

辻本圭次



### 1. はじめに

私は、大学卒業後、他の仕事をしていましたが、9年前に農業を志し、かつらぎ町から串本町に移住しました。

移住前に、かつらぎ町の県農業大学校（現農林大学校）社会人課程で農業を学んだ後、串本町の花き栽培農家さんのもと2年間研修を受け、その後、独立し施設を借りてトルコギキョウ栽培を始めました。農業は、私1人でやっているのになかなか大変です。

### 2. 農業への思い・取り組み

現在、紀南農協花卉部会トルコギキョウ分科会に属し、市場へ計画・安定出荷できるよう、皆で栽培方法の検討を重ねながら、協力し合いして高品質を目標に生産しています。

トルコギキョウを栽培して8年目になりますが、まだまだ技術や管理不足で品質向上・安定出荷が課題です。

串本町に移住・就農するにあたり、多くの人に助けて頂きました。

畑での作業は一人ですが、今も多くの方々の支えがあり農業を続けることができています。

生産者、行政、農協、市場等の関係者との信頼関係をより深め、産地の維持・発展を目指して行きたいです。

また、自分の役割に責任を持ち、「人と人の繋がりを大切に」農業を続けていきたいと思えます。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積 トルコギキョウ (施設)	16a
○労働力 本人	1人

価格低迷、自然災害など厳しい農業経営ですが一生農業で生活ができるよう新しいことにもチャレンジすることを忘れずと思っています。



摘蕾作業



トルコギキョウ栽培ハウス

# 県農林大学校学生です。

## ～農林大学校農学部1年生の自己紹介&近況報告(第2回)～

### 園芸学科

僕の出身は、上富田町で、実家は、イチゴ農家をしています。僕の夢は、農林大を卒業後、イチゴ農家として働きたいと思っています。

農林大に入ったきっかけは、高校の先生にこの学校を進められ、将来、実家の農業を継ぎたいと思い入学しました。

この学校ではイチゴ栽培を学びたいと思っていますが、とても難しいと聞いているので少し不安です。しかし、イチゴの栽培の基礎から、応用までしっかり学びたいと思います。

また、その他にも様々な作物を学び就農後に作ってみたいです。



私の出身校は紀北農芸高校です。出身地は紀の川市粉河です。

この学校に入学した理由は、祖父と叔父さんが農業しており、それを継ぐために知識と技術を学ぶために入学しました。

将来の夢は、まず叔父さんのところで10年間修業をして、その後実家を継ごうと思います。

農林大で頑張りたいことは学科と実習をできるかぎり頑張りたいです。そして良い成績で卒業したいです。



私は紀美野町出身で、実家は非農家です。

小学生の頃から毎年春から夏にかけて家の軒下でミニトマトのプランター栽培や家の畑を使って家庭菜園をしていたので、農業関係の大学で農業の知識をたくさん学びたいと思い農林大学校に入学しました。専攻は野菜コースです。

毎日の実習で作物をしっかりと観察し、美味しい野菜を栽培したいです。

農林大学校を卒業したら、機械関係の仕事に就きたいと思っています。

農業機械の授業では機械の構造や仕組みをしっかりと勉強し、将来に生かせるようにしたいと思っています。



古久保 龍 句

私の出身は、和歌山市です。  
 農林大に入ろうと思ったきっかけは、私は自然が好きでそれに関わる仕事がしたいと思い、それなら何があるか考えたところ農業が浮かび、この学校を選びました。  
 卒業後はこの学校で学んだ知識や技術を活かし、農業関係の会社に勤めてお金を貯めていきたいです。  
 そして将来の夢は、ゆっくりとした田舎暮らしです。私の好きな自然に囲まれて農業をしながら自由な生活をしたいなと思っています。



出身高校は紀北農芸です。なぜ農林大学校に進学したかというと高校時代に野菜を専攻し学ぶうちにとっても面白く興味を持ったからです。  
 私の家は柿農家をしています。父と祖母の2人で農業をしています。日々忙しそうに柿の摘蕾や摘果、収穫をしています。自分もこの学校で得た知識と技術を活かし実家を手伝えたらと思います。



道 浦 まどか



室 谷 将 喜

僕は桃山町出身で、実家はモモ、カキ、ミカン、リンゴなど数多く生産しています。  
 農林大学校に入った理由は、将来、実家を継ぐために最新の技術を取得し、生産の幅を広げようと思ったからです。  
 この農林大学校では果樹コースを専攻していて、モモ、カキ、ミカン以外にナシやブドウなども栽培してます。  
 今、実家で栽培している品目以外にも栽培できるようになればいいなと思っています。



自分の出身地は、新潟県新潟市です。  
 新潟向陽高校出身で体育コースでした。なので、体を動かすことが大好きです。その中でも好きなのが、サッカーとバドミントンとバレーボールです。  
 農林大学校に入学した理由は、ミカンとウメの栽培をしたいからです。  
 将来は、祖父のいる佐渡にいきミカンとウメの栽培をして有名人になることが夢です。  
 今一番頑張りたいことは、将来のためにいろんな人と交流関係をつくることです。  
 自分が佐渡で農家をしているところを皆様見に来てください。



森利口 陸 人

わたしの出身は、みなべ町で家は梅農家をしています。  
出身校は田辺工業高校の電気電子科で農業に関係の無い所から進学しました。

家の農業は少しだけの手伝いで殆ど経験が無かったのですが、祖母に農林  
大学校のことを教えてもらい、とても興味を持ちました。少し知るのが遅  
かったですが勉強をして入ることができました。

私は、農林大学校に入り、農業のことや果樹などのことを学び、この2年  
間を無駄にしないように頑張り農業関連の仕事に就きたいと思っています。



.....



私は橋本市出身で、実家は農家で野菜と米を栽培しています。  
農林大学校に入学したきっかけは昔から家の農業を手伝っていて、農業は  
いろいろな発見があって面白いと思うようになりました。

そして、紀北農芸高校で農業のことを学んでいましたが、もっと農業の知  
識や技術を身につけたいと思ったからです。

将来は就職して働きながら、実家の農業をやっていけたらと考えています。  
いつかは専業農家になって、地域の休耕田をなくしたり、消費者の方に喜ん  
でもらえるようなものを作りたいと考えています。

座学や実習を頑張っって知識や技術を身につけて、取得できる資格は頑張り  
て取得したいなと思っています。

.....

## アグリビジネス学科

私は、大阪府立農芸高等学校出身で果樹を専攻していました。

農林大学校に入学しようと思った理由は、高校時代に学んでいたみかん栽  
培について、もっと知識を深めたいと思ったからです。しかし、入学してか  
ら様々な実習を行ううちに花きについて興味が深くなってきました。そして、  
専攻は花きコースにしました。

花きコースでは授業でアレンジメントが学べ、フラワー装飾技能検定の資  
格を取ることができます。ここでたくさん知識や技能を磨き、お花を使った  
作品で人を感動させられるようになりたいです。



.....



僕の出身校は紀北農芸高校です。高校入学当初は、農業に関する興味が無  
く、高校卒業後の進路は何も考えていませんでしたが、農業高校で色々な体  
験、学び、そして様々な人との出会いを通していくうちに農業への興味が徐々  
に沸きはじめ、将来は農業関連の仕事に就きたいという願望が僕の心の中に  
芽生えて農林大学校に進学しました。

最近では、農業の後継者不足が問題となっており、農家のほとんどが高齢  
者というのが実態です。僕はその現状を少しでも変えていけるよう農業に貢  
献したいです。

### 不整地で組み立て可能なシカ捕獲用囲いワナ

果樹試験場 環境部 副主査研究員 西村 光由

#### 1. はじめに

シカは、本県の主要な農作物を加害するため、対策として農地の防護と共に捕獲・駆除が行われています。シカの捕獲方法の一つとして、複数頭を同時に捕獲できる囲いワナが有効です。しかし既存の囲いワナは全ての面が金属製のパーツで構成されるため、平坦地にしか設置できません。本県では、傾斜地園も多く、そのようなワナを設置できる平坦な場所は、限られてしまいます。そこで、捕獲場所を広げるために傾斜のある不整地でも捕獲できるよう、高強度ネットを用いた「不整地対応囲いワナ」を開発しましたので紹介します。

#### 2. ワナの組み立てとシカのワナへの誘引

##### (1) ワナの組み立て

今回開発したワナは、傾斜角度 20° までの斜面に設置可能です。ここでは、湯浅町山田の山林内の傾斜地（傾斜角度 15°）にて、幅 3 m × 奥行 4 m × 高さ 2 m のワナを組み立てた事例を示しています（写真 1）。骨格の支柱には単管パイプを使用しました。

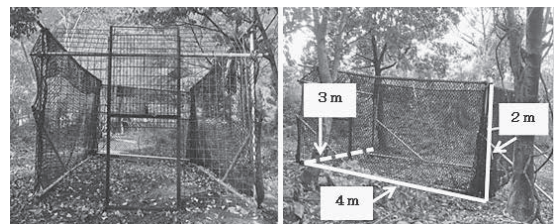


写真 1. 不整地対応囲いワナの構造

出入り口には、既存の囲いワナの扉 1 枚を含むメッシュを 3 枚使用し、両サイドと後面には、護岸工事用の高強度ネットを使用しました（写真 1）。なお、既存の囲いワナでは中に入ったシカの飛び出しを防ぐため、全ての面の上部に内側への折り返しを持たせていますが、試作したワナでは、高強度ネットを使用した側面と後面の上部には折り返しを付けずに試験を行いました。組み立て時間は、大人 1 名で 2 時間 40 分でした。

##### (2) シカのワナへの馴化

ワナを設置する場所を決め、すぐにワナを設置すると、シカは警戒心が強い動物のため、驚いて逃げってしまうこともあります。確実に捕獲するためには、ワナ設置前からヘイキューブ（乾燥牧草）、カンキツの剪定枝、飼料用岩塩を用いて餌付けを行い、捕獲場所へのシカの誘引を行います。

その際、単管パイプ等のワナの資材をエサ付近に置きながら、徐々に馴らします（写真 2）。ワナの組み立て中も誘引を継続し、組み立てたワナに対しても警戒させないようにするのがポイントです（写真 3）。



写真 2. ワナ資材への馴化



写真 3. ワナへの馴化

### (3) ワナの中へのシカの誘引

ワナに警戒しなくなったら、A、B、C、Dの順にエサを置き、捕獲のための誘引を行います（写真4）。

A 外側：ワナの入口付近にエサを置く。

B 内側：ワナの外からシカが首を伸ばして口が届く範囲にエサを置く。

C：ワナの中央。

D：ワナの奥へ誘引する。

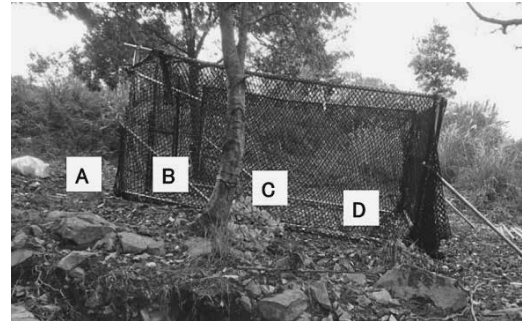


写真4. ワナ設置後のエサの置き方

#### 【ポイント】

Aに置いたエサが完食されたら、次はAにエサを置かず、Bに置くようにします。エサを置く地点を徐々にB→C→Dと変えて最終的にワナの奥まで誘引します。

### 3. シカの捕獲

ワナの奥のエサが3日以上続けて完食されるようになれば、いよいよ捕獲開始です。

捕獲試験では、ワナの扉を落とす仕掛けは、果樹試験場と（株）タカショーデジテックで共同開発した電子トリガーを使用しました（写真5）。電子トリガーは、センサーから照射される赤外線にシカに反応すると、扉を釣り上げているワイヤーが外れ、扉を落とします。電子トリガーのセンサー部は、ワナの奥から80cmのネット側面に、地際から70cmの高さで設置しました。



写真5. 電子トリガーの取り付け

捕獲試験の結果、既存のワナと同等の捕獲が可能で、平成29年12月から平成30年1月の期間に計3回捕獲を行い、3頭を捕獲することができました（写真6）。捕獲した20～41kgのシカの場合、飛び越え防止の折り返しがなくてもワナの内側から外に飛び越えて逃げることはありませんでした。また、ワナの強度には問題はありませんでした。



写真6. 捕獲されたシカ

### 4. おわりに

このワナは、傾斜地に設置可能なため、設置場所が限定されず、傾斜地が多い被害地域での捕獲に適しています。また、設置する場所の広さにあわせて大きさを自由に変えることができ、組み立てや移設を簡単に行うことが可能です。増えすぎたシカを適切な個体数に減少させるためには今、獲り続けなければ減りません。ワナへの警戒心の高いシカを作らず、捕獲し続けることができるよう、適切にワナを活用しましょう。

# 試験研究レポート

REPORT

## 固化培地を用いたスターチスの常温育苗技術

農業試験場暖地園芸センター 園芸部 研究員 金川 真実

### 1. はじめに

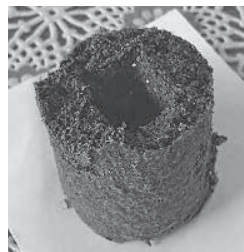
和歌山県の主要切り花品目であるスターチス・シヌアータ（以下、スターチス）は、必要量の低温に遭遇すると抽だいし開花に到りますが、低温遭遇後に高温下におかれると開花が遅延するといわれています。このため、夏季（7、8月頃）に育苗する本県では冷房育苗を行っていますが、設備費、電気料金等で育苗コストが増大しています。そこで、当センターでは冷房育苗期間を短縮し、鉢上げ後の常温下で育苗（以下、常温育苗）する技術の開発に取り組みました。この方法では、プラグ苗を購入すれば、冷房育苗施設が無くても自家育苗が可能になります。



スターチス栽培ほ場

### 2. 試験研究の内容・結果等

これまでの試験の結果、本県オリジナル品種「紀州ファインバイオレット」では、常温育苗の育苗資材は固化培地（培養土を固めたもので、培地が露出し、ポリポットが不要）が有望であることがわかりました。そこで本試験では、本県主要品種における、固化培地を利用した常温育苗の適応性を検証しました。



供試固化培地  
(すいすいポット)



定植苗  
(常温育苗)

#### 1) 試験方法

「紀州ファインバイオレット」、「紀州パープル」、「サンデーバイオレット」、「紀州ファインラベンダー」、「フェアリーピンク」、「紀州ファインイエロー」、「紀州ファインパール」の200穴または288穴の購入プラグ苗を以下の条件で育苗しました。

期間：21日（遮光率70%の資材（サンサンカーテン）で遮光）

資材：常温育苗；固化培地（すいすいポット、垣本商事（株）製）、容積：約120cc

冷房育苗；7.5cmポリポット（（株）東海化成製）、セル培土TM-2、容積：約220cc

気温：常温育苗；なりゆき気温、冷房育苗；昼温（6:00～20:00）25℃ / 夜温 15℃

かん水：常温育苗；ミスト散水（2～3回 / 日、15分 / 回）、冷房育苗；頭上かん水（1回 / 日）

#### 2) 結果

需要期（3月まで）の切り花本数は、「紀州ファインバイオレット」、「サンデーバイオレット」、「紀州ファインラベンダー」、「紀州ファインイエロー」、「紀州ファインパール」では、冷房育苗と比較して、常温育苗では同程度あるいは増加傾向を示しました（図1）。



しかし、‘紀州パープル’と‘フェアリーピンク’は、常温育苗区における需要期（3月まで）の切り花本数が冷房育苗区より少なくなりました（図1）。また、‘紀州ファインバイオレット’および‘紀州ファインラベンダー’を除いた5品種では、年内の切り花本数が減少する傾向が見られました。特に‘フェアリーピンク’、‘紀州ファインパール’では、この傾向が顕著でした（図1）。

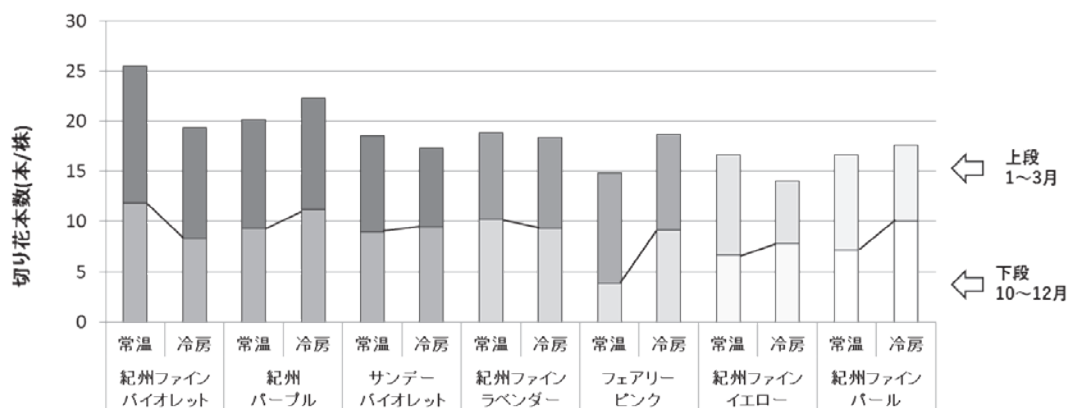


図1 育苗方法と切り花本数

### 3) コスト試算

固化培地で常温育苗すると7.5cmポリポットより資材費がかかりますが、空調設備や電気代が不要で、冷房育苗するより育苗コストを30%程度、縮減できます（表1）。

表1 育苗方法による1株あたりの育苗コスト試算(円)

項目	育苗方法		備考
	冷房育苗	常温育苗	
	7.5cm ポリポット	固化培地	
施設設備導入費	29.2	7.5	1年あたり(パイプハウス、空調設備)
育苗費			
育苗資材	1.5	26.0	
育苗培土	9.1	—	
電気代	8.3	—	200V、定格電流21.8A、契約電力8Kw、28日間育苗の場合
労賃 (内訳)	7.1	5.0	1時間あたり1,250円で算出
鉢上げ	5.6	3.1	鉢上げ準備(培養土の充填等)を含む
液肥施用	0.9	1.3	7.5cmポリポット2回、固化資材3回
防除	0.6	0.6	2回
合計	55.2	38.5	

注1: 育苗施設100㎡、育苗本数12,000本、育苗期間(7.5cmポリポット28日、固化資材21日)で算出

注2: 今回供試した固化培地(すいすいポット)は、培養土の充填が不要で、プラグ苗の大きさに応じた植え穴があいているため、鉢上げの作業性が良好です。しかし、培養土が乾きやすく、肥料成分を含みませんので、こまめなかん水と液肥の施用が必要となります。

注3: 試算はあくまでも一例であり、情勢により変動する場合があります。

### 3. まとめ

‘紀州パープル’と‘フェアリーピンク’は常温育苗の適応性が低く、‘紀州ファインバイオレット’、‘サンデーバイオレット’、‘紀州ファインラベンダー’、‘紀州ファインイエロー’、‘紀州ファインパール’では切り花本数を確保することができ、固化培地を用いた常温育苗の適応性は高いと考えられました。固化培地を用いた常温育苗は、品種間で差があるものの、需要期の切り花本数を確保できるとともに、育苗コストを約30%縮減できることから新たな育苗方法として有望な方法だと考えられます。

# 試験研究レポート

REPORT

## 紀州龍神地鶏開発プロジェクト

畜産試験場養鶏研究所 主査研究員 橋本典和

### 1. はじめに

本県田辺市龍神村には、300年以上の歴史を持ち遺伝資源として非常に貴重な「龍神地鶏」という地域固有の日本鶏品種が存在します。しかし、龍神地鶏は、限られた地域で長い間繁殖が繰り返されてきたため、近親交配が進み個体数が減少、絶滅が危惧されたことから、養鶏研究所では、平成24年度から個体数確保の取組を行っています。

また、現在、和歌山県には特産の地鶏品種が少なく、市町村や生産者などから県産地鶏品種の開発要望が寄せられていたことから、種の保存と地域振興、養鶏振興を図ることを目的に、龍神地鶏を活用した県産地鶏品種「紀州龍神地鶏」の開発を行いました。

研究では、龍神地鶏と商用品種（卵肉兼用ライトサセックス）を掛け合わせた交雑種を作り、卵用および肉用の用途で飼育し、それぞれの性能を調査しました。

### 2. 研究の成果

ふ化した交雑種の羽毛色はオスが白色（写真1）、メスが茶色（写真2）でふ化時点から雌雄判別が可能でした。このことにより、ふ化時点からメスは卵用、オスは肉用の飼養管理ができます。



写真1 交雑種オス（羽毛白）



写真2 交雑種メス（羽毛茶）

卵用に飼育した交雑種メス（22～73週齢）の平均産卵率は66.8%、平均卵重は43.4g、平均卵殻破壊強度（卵の殻の強度で数値が低いと割れやすくなります）は3.34kg/cm<sup>2</sup>でした。また、52週齢（ふ化後1年）以降、産卵率及び卵殻破壊強度が急激に低下しました。

肉用に 120 日及び 150 日間飼育した交雑種オスの体重は、2kg 未満と小さく、体重 1kg 増加させるために必要なエサの量は、120 日飼育で平均 5.2kg、150 日飼育で平均 7.4kg と生産効率は低くなりました（表 1）。一般的に流通している鶏肉の品種は 50 日飼育で体重約 3.0kg、体重 1kg 増加させるために必要なエサの量は 2.0kg 程度です。

表 1 交雑種オスの体重の推移（平均値）

	36 日齢	64 日齢	92 日齢	120 日齢	150 日齢
120 日飼育	368.6g	761.8g	1179.4g	1545.7g	—
150 日飼育	383.5g	824.4g	1215.6g	1587.3g	1789.2g

### 3. まとめ

- ・ 龍神地鶏は希少な日本鶏ですが、観賞用として飼育されてきたため卵用および肉用としての性能は高くありません。しかし、商用品種と掛け合わせることで龍神地鶏（産卵率 20.8%、体重オス 1.3kg）よりも性能の高い卵及び肉用の交雑種を作ることができます。
- ・ 交雑種メスは 52 週齢（ふ化後 1 年）以降、産卵率が下がり、卵が割れやすくなるため、52 週齢（ふ化後 1 年）が鶏の更新の目安となります。
- ・ 今後、ライトサセックスよりも性能の高い品種との掛け合わせを調査し、交雑種を生産効率をより高める取組を継続します。
- ・ 現在、和歌山県には特産地鶏が少ないため、希少な固有品種「龍神地鶏」を基にした本県独自の商用地鶏品種による県内地域振興・養鶏振興が期待できます。

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 平成 30 年度和海地方農業士会活動ダイジェスト

和海地方農業士会事務局

### 1. 総会及び講演研修会を開催

和海地方農業士会（会長：宮尾修司）は、平成 30 年 4 月 13 日に紀三井寺ガーデンホテル はやしにおいて平成 30 年度総会及び研修会を開催しました。

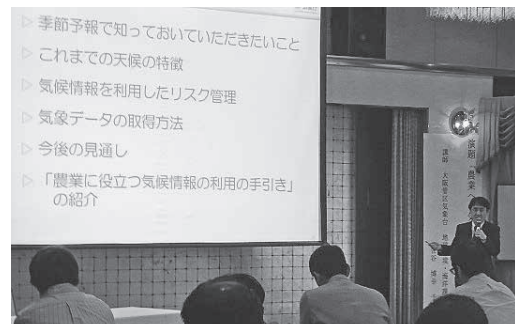
総会は会員 31 名の出席のもと、平成 29 年度活動経過及び 30 年度活動計画が議案書のとおり承認されました。

海草振興局農業水産振興課からは、総会に先立ち新政策「農業経営発展サポート事業」を説明するとともに、今年度からの普及指導計画に関連し、農業士会に新規就農者支援体制への協力依頼があり、承認されました。

また、総会終了後には、大阪管区気象台の笠谷予報官から「農業への気候情報の利用について」と題して講演をいただきました。講演では、日頃目にする気象予報の見方から気象データの活用方法まで幅広くお話しいただき、有意義な研修となりました。



平成 30 年度総会



笠谷予報官講演

### 2. 和海地方農業者交流会を開催

海草管内の農業者 4 団体（和海地方農業士会、和海地方青年農業経営者協議会、和海地方 4H クラブ連絡協議会、和海地方生活研究グループ連絡協議会）で構成される和海地方農業生活連絡協議会では、8 月 27 日に海南市総合体育館で農業者交流会を開催しました。

各団体の会員がスポーツを通じて交流を図るために毎年開催されており、今年は 16 チーム 46 人が参加しました。カローリングはカーリングをヒントにして考案されたスポーツで、ジェットローラーを的に向かって転がし中心に近い方が高得点となるゲームです。各チームがそれぞれ 3 試合を行い、合計得点で順位を競いました。

各会員ともカローリング競技はあまり馴染みが無く、年に 1 回の交流会だけではなかなか上達は難しく、的を通り過ぎたり、届かなかったりする度に笑いや歓声が起こりました。



開会式



カローリング競技

地域や栽培品目が異なり、日頃あまり交流ができない会員同士が楽しく交流できる貴重な機会となっています。

### 3. 女性部会を実施

和海地方農業士会女性部会（部会員 12 名）では、年間を通じて様々な研修を実施しており、11 月 16 日には、海南市下津町のカフェ「FROM FARM」において研修会を実施しました。

当日は、研修会場となった FROM FARM 代表の大谷幸司氏の取り組みについて話を聞き、意見交換を行いました。大谷氏は、Uターン就農後、まずスプレーマム栽培に取り組み、その後和歌山の特産物を使った加工品づくりを始め、2013 年にみかん農家の倉庫として使われていた建物を改装した農産加工販売の事業をスタートし、その後、カフェもオープンされました。

さらに、現在は下津町で援農運営に取り組みされており、意見交換では部会員から援農についての質問が多く出されていました。

また、意見交換に続き、30 年度後半の活動計画についてアイデアを出し合いました。



大谷氏より情報提供



活動計画を検討

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 那賀地方農業士協議会の活動について

那賀地方農業士協議会事務局

### 1. 県外研修の開催（那賀地方農業士協議会長 指導農業士 飯田勝）

当協議会では、平成30年2月22日、会員の資質向上と親睦を図るため、三重県三重郡にある癒やしと食の複合温泉リゾート株式会社アクアイグニス コンフィチュールアッシュ及び三重県伊賀市の伊賀の里モクモク手づくりファームを訪問し、先進地研修会を実施しました。

アクアイグニスでは、最高の食材を自らの手で栽培することにこだわっており、施設内においてイチゴ等の栽培を行っている。今回は、シェフがプロデュースするイチゴ園「TSUJIGUCHI FARM」を見学し、栽培面積（2600㎡）、品種（「あきひめ」「紅ほっぺ」）、栽培方法（減農薬への取り組み）、温度管理等について説明を受けると共に、施設内の農産物を使った料理・スイーツ等の提供について研修を受けました。

伊賀の里モクモク手づくりファームでは、代表取締役 松尾社長から設立経緯から現在の作付け面積、栽培品目、体験概要等について説明を受けた。会社方針として、自給自足にこだわり、農家等に対し、大豆・麦・トマト等の作付け依頼を行っていることや、冬期来場者の減少に対応するため、通信販売への取り組みを始め、通信販売とギフトを中心に商品を発信（年間売上14億円）しているとの事であった。



アクアイグニスでの研修



アクアイグニスのイチゴ栽培施設

### 2. 女性部会カトリア会研修の開催

（那賀地方農業士協議会女性部会カトリア会長 指導農業士 田村八江子）

当女性部会カトリア会では、平成30年1月31日、会員の資質向上のため、直売所の取り組みについて農事組合法人「くにぎ広場・農産物直売交流施設組合」並びに道の駅「柿の郷くどやま」において研修会を開催して農業士としてのスキルアップを図りました。

「くにぎ広場・農産物直売交流施設組合」では、組合長 岡本進氏から「幻のはたごんぼ」と言われた野菜を地域の特産品として復活させるための栽培・販売等の取り組みについて説明を受けました。

また、「柿の郷くどやま」では併設の農産物直売所（よってって）での販売品目等について見学すると共に、九度山町職員から「世界遺産の町・九度山」と「高野山」につい



はたごんぼの販売

て展示パネルを使い、歴史等について研修を受けました。

### 3. 紀の川市農業士会総代会・研修会の開催（紀の川市農業士会長 地域農業士 山田泰寛）

平成30年3月23日、紀の川市役所本庁舎大会議室において、総代会及び研修会を開催しました。

#### ①総代会の開催

総代会では、会員、関係者合わせて42名の出席のもと、

- 1) 平成29年度活動経過並びに収支決算報告
- 2) 平成30年度活動計画（案）並びに収支予算（案）

について審議され、それぞれ議案書等のとおり承認されました。

#### ②研修会の開催

総代会終了後には研修会として、1部は会員2名による体験発表を行い、2部は講師をお招きして講演が行われました。

体験発表のテーマは『私の農業』。指導農業士 西口靖氏から、「家族と共に歩む ～楽しい農業の実践～」と題して、家族で話し合いながら役割分担を行い、果樹と肉牛の複合経営に取り組んでおり、果樹では栽培する作物に作業が集中しないよう組み合わせを行い、責任分担を明確化することで、作業が行き届くよう高品質生産に取り組んでいること。肉牛生産では、肥育管理でストレスを少なくし、高品質生産と量産を目指していること。今後は、「一生勉強・一生感動」をもっとうに楽しみながら農業を行っていく思いを発表していただきました。

続いて『農業に懸ける思い』をテーマに、「高自給率地域で魅力ある農業」と題して、地域農業士 壺井邦樹氏から、直売所「めっけもん広場」がきっかけで地域の生産意欲が増し、多種多様な農産物が出荷される自給率の高い地域であることが認識され、新しい感覚を持った若手や、異業種からの就農者が増えることで地域農業が活性化されていることや、自らの経営における主要品目は、イチジク・イチゴ・花卉であり、それぞれ高品質生産による収益向上を目指し、消費者が求めている品物を作るといった感覚を持ち続けることが必要であると考えている。今後は、「環境制御技術」等を勉強し、安定・良品質生産に地域の仲間と共に、魅力ある農業を目指していくとの発表を行っていただきました。

講演会では、「和歌山の気象について」と題して、和歌山气象台 予報官 上田征弘氏から、和歌山県の地形・気候（各地の月降水量・月平均気温、平均値分布図、地球温暖化等）について、和歌山県の大雨特性（低気圧、高気圧、温暖前線、寒冷前線等）、防災気象情報の入手と利用について講演され、出席者からは天気予報のお勧めチャンネルや地球温暖化等の質問がありました。



紀の川市農業士会長 挨拶 山田泰寛氏



体験発表：西口靖氏



体験発表：壺井邦樹氏



講演：上田征弘氏

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 伊都地方農業士連絡協議会の活動

伊都地方農業士連絡協議会事務局

### 1. 総会及び研修会の開催

平成 30 年 4 月 17 日、伊都地方農業士連絡協議会（会長：廣田哲也）の総会が和歌山県農業共済組合北部支所伊都出張所において会員ら 40 名出席のもと開催、全ての議案が承認されました。退任される指導農業士や新規認定された方の紹介に続いてそれぞれ一人ひとりからご挨拶をいただきました。

総会後の研修会では農業共済組合伊都出張所の宮西所長から「収入保険制度について」と題して、ご講演をいただき、制度の概要、加入の条件、他の類似制度との相違点等について説明があり、出席した会員らは熱心に質問するなどして本制度について理解を深めていました。



講演する宮西所長

### 2. 農業士、新規就農者との交流

平成 31 年 1 月 22 日、伊都振興局において伊都地方農業士連絡協議会の経営事例研修会を開催。農業士、若手農業者、新規就農者、市町等の関係者ら 35 名が出席しました。

最近のカキの品種・育種の動向と新品種「紀州てまり」の特性と題して、果樹試験場かき・もも研究所の古田副主査研究員の講演に続いて、指導農業士の井上公雄氏（橋本市）、松岡和美氏（かつらぎ町）、山本恵造氏（九度山町）が自身の経営概要、今後の経営方針等について発表しました。

井上氏は、農大卒業と同時に就農。就農当初は柿・米の複合経営でしたが、平成 5 年に施設 13a で切り花栽培を開始。二十数年間続けましたが、燃油高騰等により撤退。これを契機に親類などの農地を借りて規模拡大し、柿単一経営に方針転換。今後は、BM菌活用による肥培管理で美味しい柿づくりを実践するとともに、人の繋がりを大切にして、当面は約 3ha の経営規模（現状維持）で営農を続けて行くと話されました。

松岡氏は、農家に嫁いで子育て中は義父母の手伝いでしたが、平成 5 年以降、営農の中心者（夫は会社勤務）となったのを機に柑橘類 30a を李、山椒に改植。平成 15 年頃、実家の柿 70a、スモモ 30a を引き受け、約 2ha の経営規模に拡大。一方、3 年前には申柿生産から撤退するなどメリハリのある経営を展開。獣害対策として音波発信器を活用しながら、後継者（娘婿）が退職するまで、現状維持で楽しい農業を続けていくと述べられました。



発表者との意見交換



山本氏は、農大卒業後、すぐに就農。当初、実家の経営は、柑橘・柿で3.5haの果樹複合経営。就農当初に桃15aを任せられ、営農を開始。その後、約10年間、花の施設栽培25aに挑戦しましたが、バラの価格低迷、燃油高騰等により完全撤退。現在では、経営は労力に見合った規模（柿150a、桃20a）に縮小しており、自身の経験談から、「販売にバランス感覚を持つこと」、「少いで良いから自分で売る」ことの重要性を力説されました。

続いて、廣田会長の進行で発表者3名との意見交換、若手農業者の紹介等を実施。会場の出席者から「それぞれの経営の中で雇用をどの様に確保しているか」、「営農上で困っていること」、「紀州てまり」について、接ぎ木親和性、遅れ花の着生、日持ち性、罹病性等について質疑が交わされました。最後に、発表者から会場の出席者へメッセージを話してもらい研修会を締めくくりました。

今後も若手農業者との交流を盛んにし、本協議会が地域農業の活性化や就農支援の一役を担えるように取り組んでいきたいと考えています。

### 3. 奈良・大阪方面への県外研修

平成31年1月28日、就農支援の優良事例、農産物加工、農産物直売所の見学を通して、自己研鑽と会員相互の親睦を図るため、農業生産法人山口農園（奈良県宇陀市）、河内ワイン館（大阪府羽曳野市）、葉菜の森（大阪府和泉市）を訪問。会員ら17名が出席しました。

山口農園では、山口社長からスライドで農園の概要、会社設立の経緯等について説明を受けました。

経営面積は10ha（うちハウス165棟）で有機野菜を生産。微生物活用（完熟牛糞堆肥施用）してハウレンソウ、コマツナなど十数種類の葉物野菜を生産（有機JAS認定）。回転率の良い作物の周年生産で生産性向上、安定雇用、分業化で効率化を図っている。

就農支援では、2年間正社員として雇用し、さらに独立を希望する者には農地の斡旋、生産物販売（共同出荷）まで支援している。また、アグリスクール（農業職業訓練学校）を開設し、半年間、研修生を受け入れ、遊休農地を学生圃場として活用、授業の一環でハウス建設するなどコストを抑えている。

地域との連携では、自主防災組織化や訓練の実施、婚活イベント開催、地域イベントへの参加。6次産業化では、有機野菜入り餃子、「大和まな」の粉末を使ったカレーなどを商品化。高齢化、過疎化の進む中山間地であって、雇用創出、遊休農地の解消など地域の活性化に一役を担っていることなど説明を受けました。

河内ワイン館では、ワイン工場を見学し、河内ワインの由来、最新の搾汁機や熟成の過程などを学んだ後、ワイン館で数種類の梅酒、ワインを試飲。白と赤ワインの製造方法や機能性の違い等の説明を受けました。

葉菜の森では、大塚店長らから当直売所の概要説明を聞いた後、和泉市など地場産農産物や和歌山県産果実の販売状況を見学しました。

本協議会では、この様な視察研修を通して会員間の連携を強め、先進事例を学ぶ事で地域の活性化に繋がっていただくと考えています。



山口社長から説明を聞く



完熟牛糞堆肥づくり

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 有田地方農業士協議会の活動について

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会（会長：嶋田勝彦）では、生産技術の向上や農業経営の発展、情報交換による会員相互の交流などを目指し、講演会や技術研修会を実施するとともに、新規就農者など地域の青年農業者の育成や女性農業者の研修などを支援しています。

### 1. 総会及び研修会の開催

4月11日、平成30年度有田地方農業士協議会総会を開催し、平成29年度事業経過報告と収支決算報告、平成30年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されました。

総会後の研修会では、有田川町4Hクラブ松坂進也氏から、全国青年農業者会議園芸・特産作物部門で農林水産省経営局長賞を受賞したブラックライトを選果機に取り付けることで、みかんの腐敗果を効率的に取り除けるよう取り組んだ内容や今時のネット通販として「フリマアプリ（メルカリ）」を利用した直売について、湯浅町4Hクラブ井



有田川町4Hクラブ松坂進也氏の発表

上信太郎氏から、和歌山県青年農業者会議において県知事賞を受賞した食事・宿泊を提供することで大学生を受け入れ、みかんの収穫等の農作業体験（動き手確保）を行っている事例について説明を受けました。

次いで、和歌山県農業共済組合の瀬藤成敏氏から、「収入保険制度」について、農家目線でのわかりやすい説明が行われました。

農業士からは、若い地元農業者からの発表に対して「ブラックライトではどの程度の傷がわかるのか」、「無償ワーキングホリデーとあるが、実際の経費はどの程度必要か」などの質問がいくつも出され、熱心に質疑応答が行われました。

### 2. 技術研修会の開催

7月17日、有田川町の県果樹試験場において温州みかんの生産技術研修を開催しました。果樹試験場の研究員3名（中地主任研究員、田嶋主査研究員、武田副主査研究員）から、「今年の温州みかん（柑橘類）の状況と栽培のポイント」、「YN26、きゅうきの研究成果」について、技術解説を受けました。

「今年のかいよう病は経験ないほど多いが、防除はいつ



和歌山オリジナル新品種「きゅうき」の解説

まで必要か」や「きゅうきはどれくらい育てれば大きくなるのか」など、予定された時間を大幅に超える質疑が行われました。

### 3. 新規就農者（アグリビギナー）への支援

7月25日、有田振興局農業水産振興課が就農して間もない農業者に対し行う「アグリビギナー等技術経営研修」に有田地方農業士協議会から7名参加、意見交換会でのグループ討議の進行役として協力しました。

研修では、農業機械の安全使用について、特に刈払機の構造やメンテナンス、使用上の注意点を中心に実物を見ながら説明がありました。終了後、会議室にてグループに分かれ、意見交換会が行われました。自己紹介のあと、新規就農者より困っていることや今後の取り組みを発言してもらい、農業士より経験を踏まえた助言や今後期待すること等話をしてもらう形で進め、最後に各グループの意見発表により、全員で内容を共有しました。

意見交換会では、終了時間まで会話が途切れることがなく、参加した新規就農者からは、以前に人から聞いて理解できなかったことや鳥獣害対策について、じっくり話を聞くことができよかった、天候等に応じた管理が必要なので、経験豊富な人のアドバイスがとても参考になったという意見がありました。



3～4人グループで意見交換

### 4. 女性農業者への支援

7月9日、「平成30年度有田農業女子プロジェクト第1回研修会」が開催されました。本イベントの目的は、普段あまり交わりのない農業女子同士が交流することで、知り合いの輪を広げ、農業についての知識や技術を身につけるきっかけをつくることです。有田地方農業士協議会女性部会は、グループの会話をスムーズに進め、交流を促すコーディネータとして、また、先輩農家としてアドバイスをするため、6名が参加しました。

研修では、「農薬用マスクの正しい使い方」について説明がありました。その後、参加者を少人数グループに分け、「農薬散布時に気をつけていること」や「女子プロジェクトで何をしてみたいか」について話し合いました。

9月12日の第2回研修会にも4名が参加、農業経営や栽培品目、子育てとの両立等について意見交換を行いました。

参加者からは、同じような立場の女性農業者と話すことができ、参考になったとの意見が寄せられました。

当協議会では、これらの活動の他に、4Hクラブと「有田地方農業士協議会・4Hクラブ合同現地研修会」や農業士会・4Hクラブ・生活研究グループの3団体で「有田地方農業者団体連絡協議会研修会」を開催するなど、多様な担い手と協力して研修や意見交換を行う取組も行っています。



意見交換会

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 日高地方農業士会の活動について

日高地方農業士会事務局

### 1. 花育活動を実施

5月18日、日高地方農業士会（会長：谷廣美）と日高地方花き連合会（会長：佐藤公彦）は、共催で「花育」活動を実施しました。

この活動は、管内の小学生と支援学校の生徒を対象に、花に親しみ、花とふれあう機会を通して、豊かな心を育くむとともに、当地方が全国有数の花の産地であることを知ってもらおうと行っているもので、今年で10回目となります。花き連合会会員が無償提供したスターチスや宿根カスミソウ、カーネーション等の切り花を花束にして、農業士会会員が管内の小学校33校（支援学校含む）の5、6年生の各クラスに日高地方の花を紹介したパンフレット、参考資料とともに届けました。

33校のうち6校では、花束の贈呈式が行われ、両会会員が生徒代表に直接花束を手渡し、花に関する豆知識の講話を行いました。贈呈後、日高地方花き連合会会員の指導のもと、花束づくり体験を実施しました。生徒はスターチスなどの花を一束にしてビニールに入れ、リボンを巻いてプレゼント用の花束を完成させ、笑顔で花束づくり体験を楽しみました。



贈呈式（切目小学校）



花束づくりを終えて（切目小学校）

### 2. 地域リーダー研修会

日高地方農業士会（会長：谷廣美）は、11月2日に平成30年度地域リーダー研修会を滋賀県近江八幡市の農業生産法人浅小井農園で開催し、農業士会会員他25名が参加しました。

浅小井農園では代表取締役の松村務氏からGAP取得の取り組みや中玉トマト施設栽培等について話を伺うとともに施設見学を行いました。

また、施設での軽労働化の取り組み、加工品開発では、規格外品を利用したドライトマトや冷凍果実の商品化などの生産から販売まで幅広くお話を伺いました。



浅小井農園の松村取締役を囲んで

### 3. 女性部会が現地研修会を開催

日高地方農業士会女性部会（部会長：鶴尾安代）は、7月17日に農産物の市場流通について学ぶとともに会員同士の交流を図ることを目的に県外研修会を実施し会員14名が参加しました。大阪市中心卸売市場本場を訪れ、果実卸売場、野菜卸売場並びに水産卸売場を見学、果実のせり場では、競りをするときを使う、手で数字を表す手振符牒（てぶりふちょう）を体験しました。その後、仲卸店舗で果物の仕入れ体験を行いました。

また、11月7日には、日高町で現地研修会を実施し、会員15名が参加した。町産業建設課から町の概要について説明を受けた後、日高元気塾代表の津村利治氏らから平成24年に始めた「なた豆」の6次産業化の取り組みについて、経緯、商品開発や販路開拓などのお話を伺うとともに質疑などを行い、参加者の交流を深めました。



大阪市中央卸売市場本場 せり場



日高町での現地研修会

### 4. 第32回地域農業を考える日高のつどいを開催

テーマ「元気！やる気！われらが主役」

農業士会、生研グループ、4Hクラブで組織する地域農業を考える日高のつどい実行委員会では、1月17日、紀州農協印南支店において「第32回地域農業を考える日高のつどい」を開催し、会員、関係者約150人が出席しました。

講演1部では、風神会計事務所の代表社員・税理士の風神正典氏から「農業経営を継続するために留意しなければならない消費税法改正（2019年10月）の内容理解とこれからの取り組みについて」と題して、消費増税にかかる軽減税率や農業分野での対策について有意義なご講演を頂きました。講演2部では、大道芸人のたつきゅうさんこと田久朋寛氏から「笑う門には健康が来る」と題して、大道芸を披露し、生活に笑いを取り入れる「笑いヨガ」の実演を頂きました。最後に情報提供として、経営支援課担い手育成班長の宮向克則氏から「わかやま農業経営サポート事業の取り組みについて」と題して、経営発展に向けた取り組みについて話を聞きました。



風神氏の講演



たつきゅうさんの講演

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 会員の交流と研鑽を深める活動の実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

### 1. 総会・研修会を開催

4月17日、西牟婁地方農業士会連絡協議会（会長：木村則夫）は、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、会員及び行政関係者等約65名が出席のもと、総会並びに研修会を開催した。総会では、木村会長から新会員の紹介が行われ、今年度会員は148名となったことが報告された。研修会では、3月末に定年で退任された指導農業士2名より後輩への贈る言葉を頂き、山下繁一氏が「南高を拡大、梅の専作経営！～収穫・漬け込みまで省力化～」、高垣せり氏が「自分の今までを振り返って」と題し、これまで取り組んできた農業への思いについて話した。また、田辺市上芳養で地域振興活動に取り組んでいる「チームひなた」（現（株）日向屋）の岡本和宜氏から「チームひなたの取り組みについて」と題した講演があり、鳥獣害対策や農福連携による耕作放棄地の再生、地域の農産物や加工品販売を手がけた事例の報告と今後の取組方向についての提案を受けた。

総会・研修会後に行われた意見交換会では、指導農業士OB及び岡本氏の講演での提案を参考とした意見交換が活発に行われた。



新会員紹介



研修会（講師：指導農業士OB）

### 2. 女性部会が梅の消費拡大活動を実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：抜田佐代、13名）が、梅を都市の子供たちに知ってもらい、消費拡大に繋げようと大阪府佐野支援学校中学部の生徒45名と教員20名（10月12日実施）、大阪府中央聴覚支援学校高等部の生徒12名と教員10名（10月24日実施）を対象に、梅の座学と加工体験実習を行った。

座学では部会員が「梅の一年」について、パワーポイントを使って、梅の花や果実の成長する様子、栽培方法、梅干しが出来るまでの作業等を説明した後、梅の加工品や機能性について紹介した。また、加工実習

では、梅ジュースの作り方を実演し、生徒が冷凍梅を使ったジュースづくりの体験を行い、その後3種類の梅ジュースの試飲を行った。

生徒からは、「梅ジュースが出来るのが楽しみ」、「梅によって梅ジュースの味が違う!」、「梅の木1本からどれくらいの梅が収穫できるの」等たくさんの意見があった。

さらに、家庭や学校の給食に使ってもらえるように、白干梅と当部会で作成した梅レシピも配布した。

当部会では、今後も、都市の子供たちに梅の座学や加工体験を通じて、梅の魅力を伝えるとともに、保護者へも梅のPRを行いながら、梅の消費拡大活動を積極的に行っていく予定である。



座学「梅の一年」



梅ジュースづくり体験

### 3. 先進地視察研修を実施

12月25日、(株)クボタ堺製造所(大阪府堺市)と(株)早和果樹園(有田市宮原町)を視察し、当日は農業士会19名、農業水産振興課4名の計23名が参加した。

(株)クボタ堺製造所では、農作業安全啓発として、(株)東海近畿クボタの夏見紀南営業所長から11月~12月は特に農作業事故が多い実態や農業機械の安全使用について説明を受けた。さらに農業機械の知識習得により安全な使用方法の理解を深めるため、農業機械の組み立てライン等の見学を行った。また、(株)早和果樹園では、農業経営の安定と地域農業の活性化を図るための先進的な取り組み内容について、秋竹会長から説明を受けた。さらに同社では、ドローンを活用したみかんの品質管理、着色具合のチェック、薬剤散布実験を行っており、松本専務からドローン操作の実演も行われた。

今回、参加した農業士からは、「農作業時は気の緩みから事故につながってしまう。安全確認を徹底したい」、「6次産業化の取り組みは大変勉強になった」などの意見があり、大変有意義な研修となった。



(株)クボタ堺製造所



(株)早和果樹園

# 農業士会支部活動レポート

REPORT

## 東牟婁地方農業士会の活動について

東牟婁地方農業士会事務局

### 1. 総会及び研修会を開催

4月10日、東牟婁地方農業士会（会長：杉浦仁）は、休暇村南紀勝浦において、会員及び行政関係者等約24名が出席のもと、総会並びに研修会を開催しました。

総会では、平成29年度事業経過と収支決算、平成30年度事業計画と収支予算が議案どおり承認されました。また、会長の杉浦氏から、新たに会員となった地域農業士3名、青年農業士1名の紹介が行われました。

研修会では、農業共済の新システム「収入保険制度」の内容について、和歌山県農業共済組合南部支所長井上奏徳氏から説明を受けました。また、みくまの農業協同組合融資課長の石坪義孝氏から「農業関係融資」について、営農経済部次長の清水重良氏から「関西農業ワールド」開催について情報提供が行われました。

意見交換会では、地域農業の振興や農業士会の今後の活動内容等について、活発に話し合いが行われました。



総会



新会員紹介

### 2. 先進地視察研修を開催

7月25～26日、京都府南部総合卸売市場（京都府宇治市）と京都府南部の京野菜の産地（京都府宇治市、八幡市、久御山町）を視察しました。当日は農業士会5名、新規就農者2名を含む生産者12名の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課の計19名が参加しました。

卸売市場の視察では、早朝の競りを見学した後、京都南部青果株式会社の橋本尚樹部長から、近郷野菜の取扱いについて説明を受けました。南部総合卸売市場では、近年の京野菜人気に加え、生産部会と市場が一体となって販売促進に取り組んでおり、取扱量は年々増えているとのことでした。しかし、今年は、7月上旬の豪雨とその後の猛暑の影響により、取扱量は昨年のおお割程度とのことでした。



現地視察では、京野菜の九条ネギ、コマツナ、ナス、キュウリの圃場を見学しました。現地では、高温期の栽培方法や防除方法について活発な意見交換や質疑応答がかわされ、先進地の栽培技術について知ることができました。

今回、参加した新規就農者からは、「勉強になった」、「意欲がでた」などの感想があり、非常に有意義な研修となりました。



競りの見学



現地視察

### 3. 農産物即売会を開催

12月1日、東牟婁地方農業士会（会長：杉浦仁）と東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会（会長：石田大士 以下4Hクラブ）は、那智勝浦町体育文化会館で行われた那智勝浦町農産物品評会の開催にあわせて、農産物即売会を開催しました。

例年、4Hクラブ員がそれぞれ生産した農産物や加工品を持ち寄り、農産物即売会を行ってきましたが、昨年からは農業士会も販売ブースを設け、即売会を開催しました。

今年は台風により農作物が甚大な被害を受け、例年より品目は少なくなったものの、両会員は日頃の行き届いた管理により多くの量を出品することができました。即売会のテントには、開店前から多くの人々が訪れ、売れ行きは好調でした。毎年訪れているという固定客も見られ、地域の方々との交流の場となっています。



農産物即売（農業士会）



農産物即売（4Hクラブ）

# 地域の逸品!!

## もったいないから始まった加工

紹介者

紀の川市 指導農業士

稲垣 明 美

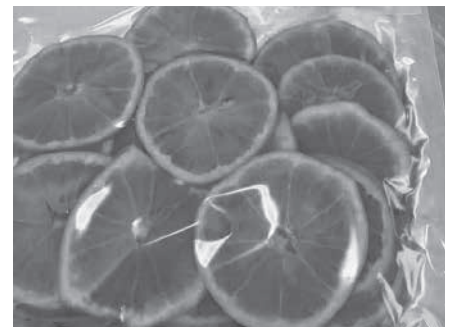


### 1. 商品の紹介

#### 特徴

さくさくみかんは、本来果実の持つ、甘味や香りを残したサクサクした食感のドライフルーツで、あら川の白桃は、甘味をプラスし、半生タイプのドライフルーツに仕上げた2種類です。

みかんのシロップ漬けはそのまま加工をしていただけるように、甘味を付けて下処理した一次加工の冷凍商品です。



みかんのシロップ漬け

#### 作られた背景

農家全般に言えるのが、年によって市場に出せる数量の変動が大きいことと、破棄される割合の多いことです。日持ちのしない果物を年中供給できる方法。それが加工を始めるきっかけとなりました。

#### まつわるストーリー

グループや家でジャムを作っていましたが、時代の流れや周りの刺激を受け個人で始めるようになりました。腹一杯食いたい! から生まれたドライフルーツは、まず手に入りやすい桃からでしたが、変色しやすい桃は商品には程遠く、初めての試作品は食べる意欲のなくなる枯葉のようでした。それでも「作りたい」がとまらず、色々な方面から情報をいただき、なにもかもが初めてで実験のような工程を重ねて今の形に出来ました。別の果物も開発途中の商品もありますが同様に試行錯誤を繰り返しました。また、製品を作る一方で、原料となる一次加工品も作っています。大量生産できないので、ケーキ店や飲食店を中心に販路を広げていきますが、生果離れの若い年齢層に形を変えて提供できれば、まだまだ伸びしろのある分野だと思います。

### 2. お問い合わせ先等

丸駒農園

〒649-6122

和歌山県紀の川市桃山町元 77-2

tel/fax 0736-66-0960

<http://www.inagaki-momo.com/>

E mail:info @ inagaki-momo.com



その他の加工品 (キウイ・モモ・イチゴジャム)

# 地域の逸品!!

果物の王様

「マンゴー」

紹介者

有田川町 指導農業士

坂井 計 巳



宮崎県のブランド「太陽のタマゴ」として有名なマンゴーですが、今回は有田地域で栽培されるマンゴーをご紹介します。

## 1. 有田地域とマンゴー

日照時間の長い和歌山県はマンゴー栽培に適した地域といえます。

なかでも有田地域では、近畿大学附属農場湯浅農場が1988年（昭和63年）からマンゴー栽培に取り組み、2008年に国内初のマンゴー新品種「愛紅」を登録されました。

全国でも先駆けてマンゴーの研究に取り組み始めた地域ですが、現在の栽培農家は有田地域で3軒。その栽培は苦勞の連続だったそうです。

## 2. 難しい栽培

有田川町の上山孝夫さんは、県果樹試験場のすすめで1994年（平成6年）からマンゴー（アーウィン種）の栽培に取り組みました。しかし、2年目には2本を残して枯死。生き残った台木に接ぎ木をしてなんとか全滅を逃れ、授粉条件、ヤニ果の発生を乗り越え、5年後の1999年ようやく初収穫を迎えました。

マンゴーは本来、樹高が10～30mになる常緑喬木で、樹勢が強い植物なので、切り返し剪定をすると樹勢が強くなり着花しなくなります。そこで、着花促進のために切り返しを極力少なくし、枝を水平方向に誘引するなど、整枝剪定に苦勞されています。

また、ヤニ果の発生を防ぐために、夜間25℃以上を保つ必要があることから燃料費がかさむのが問題です。



## 3. 販売

マンゴー栽培の噂が口コミで広がり、現在は消費者への直接販売や、事業所・病院関係者などからの購入依頼でほぼ全量を販売されています。

## 4. こだわり

強すぎる光は果実に日焼けを起こすので、晴天時の屋間の光線の強い時間帯には遮光を行ったりしますが、上山さんは糖度を優先し、あえて遮光していません。

人が取り組まない事に取り組むのが好きで、有田で3軒しか栽培していない希少な宿根スイトピーの栽培にも取り組んでおられます。

# 地域の逸品!!

(株) 日向屋

「日向屋ギフト」

紹介者

田辺市 青年農業士

更井孝行



## 1. 商品の紹介

私たちが活動している田辺市上芳養日向（ひなた）地区はかつてみかんの産地でしたが、南高梅の栽培の増加に伴い、少しずつみかん栽培は減少していきました。

田辺市上芳養産の梅を使用した商品はたくさんありますが、みかんを使用した商品はほとんどなかったため、みかんの地域ブランドを開発し、繋がる地域づくりを目指したいと考えています。

「担い手不足、耕作放棄地、鳥獣害被害、この3つの課題に対して、どう向き合うのか、地域課題を地域の方々と共有し、いっしょになって解決し、もう一度、日向のみかんの生産量を上げ、みかんの地域ブランドを作りたい。」そのような思いからみかんを使った商品づくりを手がけました。

日向地区には、みかんの栽培方法にこだわった生産者がたくさんいます。

若手農家、先輩農家、年齢や考え方は違うけど、共通していることは次世代に地元を残してやりたいという気持ち。そのためには、田辺市上芳養日向地区をもっとたくさんの人に知ってもらい、日向地区で生まれた商品がいっぱい詰まった「日向屋ギフト」を販売していくことが地域のファンを増やしていく1つの手段になるのではと考えています。

このギフトの原料は100%日向地区で収穫されたみかんを使った商品たちです。

ぜひ、みなさん一度ご賞味下さい。

## 2. お問い合わせ先等

(株) 日向屋

代表 岡本和宜

住所 〒646-0001 田辺市上芳養755-2

TEL 080-3806-2716 (代表)



日向屋ギフト  
(みかんジュース、ゼリー、ジャム、  
ドライフルーツ)

# 農業士会活動レポート

REPORT

## 平成30年度 和歌山県農業士会連絡協議会 青年農業士部会活動 経営発展セミナー、車座座談会に参加

和歌山県農業士会連絡協議会事務局

1月18日、紀の川市打田生涯学習センターで開催された「第3回経営発展セミナー（主催：わかやま農業経営サポートセンター）」の講演及び車座座談会では、48名の参加者があり、うち県農業士会連絡協議会も青年農業士部会活動の一環として参加し、県下各地から11名の青年農業士が出席しました。

第1部の経営発展セミナーの講演では、「これからの地域農業と進むべき道！」～農地の利用と6次産業の取組～として、株式会社兵庫大地の会・有限会社夢前夢工房代表取締役社長の衣笠愛之氏から、今まで行ってきた農産物生産、加工品開発や農家レストランなど6次産業化の取組について、地域を巻き込んだ観光や防災活動、若い農業者を育てる取組などについて紹介がありました。

第2部の車座座談会では、冒頭に青年農業士の松本一輝部会長から「経営発展セミナーに参加し、意見交換、情報交換を進めて、それぞれの経営のプラスになるヒントを得ていただきたい」との挨拶があり、その後、県庁経営支援課担い手育成班の宮向班長がコーディネーター、講師の衣笠氏がオブザーバーとなり「連携による農業経緯の発展について」をテーマに情報・意見交換が行われました。

参加者から出た話題の中で、難しくなっている労働力の確保について、衣笠氏からは、「仕込み時期以外に比較的労働力の余裕が出る酒蔵や酒造会社など、他業種と連携して雇用労力の融通し合える可能性などについて検討してみてもどうか」などのアドバイスがありました。

また、参加者からは、「県内の農家同士の横の繋がりで人材情報の共有ができる仕組み作りが出来ないか」など、活発に意見交換が行われました。



講師：衣笠氏



車座座談会での松本会長挨拶

# 農業士認定事業について

## 県農林水産業のリーダーを認定 ～ 平成 30 年度認定式を開催 ～

和歌山県農林水産部経営支援課

1月29日、和歌山市内で平成30年度の認定式を開催し、県農林水産業の中核的な担い手で、地域のリーダーとして活動している方々に対し、農業士、林業士、漁業士の認定証を交付しました。今回の認定により、県内の農業士は806名となりました。

式典で、知事は「指導的立場で、これからの農林水産業を盛り立てていただきたい」と述べて今後の活躍への期待を表しました。これに対し、海南市の指導農業士 藤坂奉

子さんが認定者を代表して「地域の農林水産業、農山漁村の活性化に一層努力する」と決意を表明されました。

また、今年度で定年を迎えられる等の指導農業士14名の方々には感謝状が贈呈されました。今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は次のとおりです（敬称略）。



知事から認定証を交付



長年にわたり活躍された指導農業士へ感謝状を贈呈

農業士認定者の皆様 66名

指導農業士認定者 17名

氏名	市町村名
藤坂 奉子	海南市
森下 友博	紀の川市
西 夕起男	紀の川市
坂口 佳弘	橋本市
富岡 幸男	橋本市
貴田 洋行	橋本市
辻 重光	かつらぎ町
南村 昌己	有田市
森 康真	湯浅町

氏名	市町村名
西岡 邦和	広川町
西岡 紀雄	広川町
岡 雅幸	御坊市
津村 文雄	日高町
畑 万知子	日高町
堀本 昌義	みなべ町
家高 勇	上富田町
岡本 由美子	上富田町

地域農業士認定者 28名

氏名	市町村名
西浦 充生	紀美野町
前阪 喜之	紀の川市
太田 浩司	岩出市
大西 貴富	岩出市
大原 康平	橋本市
曾根 嘉人	橋本市
山本 久美子	かつらぎ町
九鬼 秀介	有田市
認田 圭	有田市
塚 裕晃	有田市
林 信孝	湯浅町
糸原 伸晃	広川町
山下 哲司	広川町
石川 雅也	広川町

氏名	市町村名
米原 哲史	御坊市
芝本 貴史	御坊市
小森 理弘	御坊市
田淵 秀樹	美浜町
坂本 国之	みなべ町
西 一馬	みなべ町
湯川 真由美	日高川町
戸根 真紀子	日高川町
清水 由美	日高川町
高垣 行雄	田辺市
峯 泰弘	田辺市
平田 秀美	上富田町
麩 良子	上富田町
松本 安弘	那智勝浦町

青年農業士認定者 21名

氏名	市町村名	氏名	市町村名
中村 友泰	岩 出 市	松坂 進也	有 田 川 町
尾崎 正和	橋 本 市	山添 弘文	御 坊 市
海堀 篤	九 度 山 町	大藪 和晃	御 坊 市
佐原 貴也	有 田 市	平野 智也	み な べ 町
上野山 義人	有 田 市	柏木 研哉	み な べ 町
伊藤 貴啓	有 田 市	山本 宗一郎	み な べ 町
池田 和貴	湯 浅 町	森 夏輝	上 富 田 町
崎山 大輔	広 川 町	森 有輝	上 富 田 町
栗山 卓大	広 川 町	山本 哲也	上 富 田 町
上前 竜也	有 田 川 町	射場 康介	上 富 田 町
玉置 泰伸	有 田 川 町		

感謝状を受けられた皆様 14名（農業関係）

氏名	市町村名	氏名	市町村名
北田 多賀男	紀 の 川 市	栗山 考昭	広 川 町
樫葉 幸生	紀 の 川 市	嶋田 勝彦	有 田 川 町
西川 静子	橋 本 市	浅井 了二	御 坊 市
松岡 和美	か つ ら ぎ 町	谷 廣美	印 南 町
藤田 哲弘	有 田 市	大山 勇	み な べ 町
前田 一守	湯 浅 町	中本 正	上 富 田 町
伊藤 博文	広 川 町	下畑 千秋	上 富 田 町



## (参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士 (65 歳まで)」「地域農業士 (60 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」の3つの区分がある。

平成 31 年 3 月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	157 名 (うち女性	29 名)
地域農業士	520 名 (うち女性	49 名)
青年農業士	129 名 (うち女性	1 名)
合計	806 名 (うち女性	79 名)



表紙の人

みなべ町 指導農業士

**岡田 敦雄**さん

岡田さんは、梅 (3ha) を主体とした、青梅並びに漬け梅出荷の経営を行っています。

パイロット園を梅経営面積の約5割程度に増やして生産性の向上を図るとともに剪定作業を重視して高品質安定生産に取り組んでいます。

## 和歌山の農業士 第 12 号

発行日：平成 31 年 3 月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：有限会社 阪口印刷所



# 和歌山の 農業士

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

